

戦前期日露貿易の統計的分析

村 上 隆

May 1998

戦前期日露貿易の統計的分析

村上 隆

(北海道大学スラブ研究センター)

目 次

はじめに

1. 『日本外国貿易年表』の統計的留意点
2. 日露貿易のトレンド
 - 1) 1924年までの日露貿易
 - 2) 日ソ基本条約締結以後 1945年までの日露貿易
3. 対露主要輸出品動向
 - 1) 茶
 - 2) 漁業関連用品
4. 対露主要輸入品動向
 - 1) 石 油
 - 2) 水 産 物
 - 3) 木 材

統計資料

戦前期日露貿易の統計的分析

はじめに

分担研究者である筆者の課題は、1890年代から1990年代末までの100年余の期間における日露貿易の歴史を統計的に分析することである。本ディスカッション・ペーパーは、その前半部分を構成する1890年から1945年までの日本のロシアおよびソ連との貿易を統計的に通観することを目的としている。承知のようにこの時期の日露間には、日露戦争、第一次世界大戦、ロシア革命、シベリア出兵、満州国建国、第二次世界大戦等世界を揺るがすような大きな出来事が発生した。このような環境のなかで日露貿易はどのように変遷したのであるか。当時、日本国大蔵省が編纂していた『日本外国貿易年表』をベースに分析してみたい。この統計は日本の基本的な統計であり、日本の外国貿易を知る上では最も重要である¹。

なかでも、興味深いのは、この統計は日本の対露貿易を露領亜細亜と露西亜とに区分していることである。このような分類は1894年に登場し、少なくとも統計の存在を確認できる1939年まで続いた。『日本外国貿易年表』は国別と商品別とに大別されるが、貿易相手国として国単位を対象とするのが通例である²。日本政府はロシアをどのように考えていたのだろうか。今日、ロシアが「我が国はアジアの一国である」と主張し、経済面でもアジア・太平洋地域への統合に意欲を燃やし、1987年11月の橋本・エリツイン会談では日本がロシアのAPEC加盟支援を表明したことで満足の意を示したことを考えれば、すでに戦前期に日本政府がロシアにおけるアジア地域を意識していたことは注目に値する。貿易面では戦前期にすでに今日的な姿が具現化されていたのであり、貿易の中身が現在と比較してどのように移り変わったのかを検証したい欲求にかられたのが本テーマの分析の背景にある。

1. 『日本外国貿易年表』の統計的留意点

『日本外国貿易年表』は輸出入業者の税関申告に基づいて作成されたものであり、利用にあたって留意しなくてはならない点がある。

¹ 『日本外国貿易年表』は1928年(昭和3年)までは『大日本外国貿易年表』と呼ばれていた。

² 1900～1913年間は一卷本、1914～1928年は上巻・下巻、1929～1939年までは上巻・中巻・下巻から成る。但し、1940～1945年は入手できなかったので不明。なお、1921年下巻(国別貿易)および1922～1923年の『大日本外国貿易年表』の所在について、総理府統計局、大蔵省統計資料室、一橋大学経済研究所図書室および国会図書館に当たってみたが発見できなかった。北大図書館片山俊治氏の協力を得て、図書検索および主要大学図書館に問い合わせてもらったが、どこも所有していなかった。関東大震災の時であり、作成されたのかどうかはまだ確認できていない。

第一は露領亜細亜と露西亞との区分の問題である。国別の分類は輸出については最終仕向地の、輸入については産出地または製造地の属する国名（地名）によるのを原則としている。輸出申告書には仕向港、仕向地、輸入申告書には積出地、仕入地、産出地又は製造地の記入が義務づけられている。

統計国名の分類として露領亜細亜を包含する地域は「『ロシア』社会主義連合『ソヴィエト』共和国ノ『アジア』ニ属スル部分（即チ『ウラル』山脈ノ東）並ニ『トランスコーカシア』（『アルメニア』、『ジョージア』及『アゼルバイジャン』）ノ『タークメニスタン』（『ターコマン』、『ソヴィエト』社会主義共和国『アシュハバット』、『メルヴ』等）及『ウズベキスタン』（『ウズベグ』、『ソヴィエト』社会主義共和国『サマルカンド』等）ノ『ソヴィエト』社会主義共和国ヲ總称ス」となっている。

露西亞を包含する地域は「『ロシア』社会主義連合『ソヴィエト』共和国ノ『ヨーロッパ』ニ属スル部分（即チ『ウラル』山脈ノ西）、並ニ白『ロシア』及『ウクライナ』ノ『ソヴィエト』社会主義共和国を總称ス」となっている³。

第二は輸出では「本邦から出漁した船舶の舶用品及び漁業用品」は『日本外国貿易年表』には計上されない。また、輸入では「本邦より出漁せる船舶を以て捕獲採取したる魚介類、海獣、海藻、その他の水産物及びその製品にして工程の簡單なるもの、但し当該船舶又は之に附属せる船舶を以て輸入したるものに限る」は同様に計上されない。また、「北樺太及び極東水域に於ける日本の権益に属する炭坑及び漁場に於て産出又は捕獲された輸出品及びこれらの炭坑及び漁場に供給するために輸出した物品」は『日本外国貿易年表』に計上しないことになっている⁴。

したがって、露領漁業および沖取り漁業で捕獲された水産物は『日本外国貿易年表』による日露貿易には含まれないことになる。

『日本外国貿易年表』のなかには附属統計の「特別輸出入品統計」として、品目捕獲地方別の詳細な「水産物」表を添えている（表～7参照）。1935年（昭和10年）6月までは、極東水域（北樺太を含む）での日本人の利権を有する漁場（及び鉱山）の生産品を国内に入れる場合は、輸入手続きを必要とするために輸入として貿易統計に記載されていた。輸入手続きが必要とされるのは外国の一地域と認められていることによる。しかし、1935年7月からはこれらの輸入はもはや普通統計には載らないことになり特殊統計のなかの「特別輸出入品」として取り扱われている。「特別統計表」は、漁業関連の輸出では「輸出船用内譯表」と「出漁船捕獲採取品及其製品内譯表」との二つの表が基礎になっており、『外国貿易年表』のなかに「船用品表」及び「水産物表」が公表されている⁵。

日露貿易の実態からみれば、上記水産物の輸入額が日露貿易額をはるかに上回っているために日露貿易が過小評価されることになる。

³ バルト三国は含まれない。1) - 昭和19～23年、附表1～2頁。

⁴ 1) - 昭和19年～23年。1～4頁に日本外国貿易年表解説が掲載されている。

⁵ 21) - 110～113頁。

第三はトランジット貨物の存在である。とくに、満州国からウラジオストクを經由して日本に輸入される大豆、豆糟や日本から満州国に供給される商品はウラジオストクが仕向港になるために日露貿易に計上されることになる。正確を期すにはウラジオストク港の荷動きを把握しなくてはならない⁶。

2. 日露貿易のトレンド

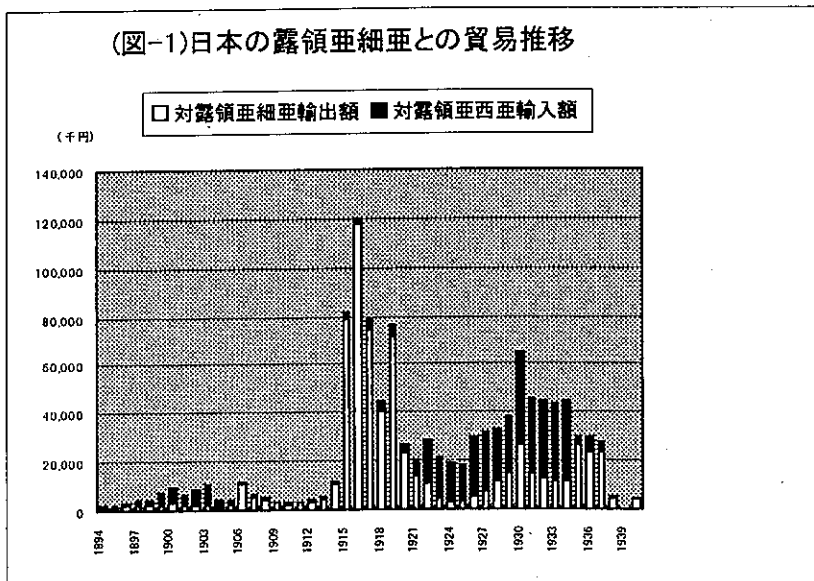
戦前期（1894～1940年）の日露・日ソ貿易（以下、日本の『外国貿易年表』に従って日露貿易、露領亜細亜あるいは露西亜と呼ぶ）を、日ソ基本条約が締結された1925年を境に大きく二つに区分できる。1925年10月にはソ連通商代表部が東京に、その支部が大阪、函館、神戸、大連に設置された。以後、日本とソ連との貿易取引はこの組織を窓口として行われることになった。つまり、日本とソ連との貿易取引形態がこれを境に全く変わり、ソ連との貿易取引を行う日本企業は通商代表部を窓口に交渉することになったのである。そのことは同時に貿易面で新たな局面を迎えることとなった。

1) 1924年までの日露貿易

1894年（明治27年）から1904年の日露戦争までの日露貿易は金額的には低調であった。しかし、今日に至るまでの日露貿易の趨勢をみれば、この時期だけが不振であったわけではなく、日露貿易額が日本の貿易総額に占めるシェアは、1901年を例外としてこの時期におよそ2%の水準にあり、とりわけ悪い状況にあったというわけではない。ただ、ロシアが大国で、海を隔てて日本に隣接しているという地理的環境を考えれば、この貿易額は少ないと評価せざるをえない。約100年たった今日においてもこの貿易状況に大きな変化がないのは興味深い。1800年代末から1900年代初頭にかけてのこのような低調な貿易状況の背後には、幕末以来日本国民の間にロシアに対して警戒感が強かったこと、さらには貿易対象となる露領亜細亜（極東、シベリア）が経済的にも文化的にも欧露に比べれば遅れた地域であり、人口も希薄であるという現実があった。

⁶ 例えば、1908年から1923年にかけてウラジオストク港を經由して輸出された満州国の貨物量（単位トン）は、1908～09年404万、1915～16年1,285万、1916～17年2,395万、1917～18年485万、1919～20年222万、1921～22年2,172万、1922～23年（暫定値）3,100万であった。20) - No.20, 3頁。

この時期の日露貿易は露領亜細亜との貿易が中心であり、日本の輸出よりも輸入の方が重要であった。露領亜細亜への輸出額は1894年から1900年にかけて着実に増大したが、1900年の350万円をピークとして1903年には220万円まで減少した。1900～1903年間に露領亜細亜から日本への輸入額は570万円から830万円に増大した。その結果、日本の貿易収支の赤字額は1900年の220万円から1903年には610万円に拡大した。露領亜細亜からの輸入のほとんどは石油、魚糟および塩鮭及塩鱒であり、これら3品目で1903年には輸入額の97%を占めている。とくに、1903年には石油（灯油）の輸入が大きく、約3,000万ガロン、460万円にのぼった。ロシアの石油は品質が良く、価格面でも米国に比べてかなり格安であった⁷。石油の露領亜細亜からの輸入は日露戦争を挟んで1907年まで続いており、その輸入量も1904年2,000万ガロン、440万円、1905年1,300万ガロン、



260万円を記録している。戦後の1906年には露領亜細亜からの輸入量は120万ガロン、1907年には160万ガロンに激減した⁸。

1900年代初頭の日露貿易は日本の輸出を軸に徐々に拡大していったが、日露戦争によって1905年に輸出が激減した。1904年には極めて例外的に露西亞から精糖が30万⁹、約200万円輸入されている。これはドイツからロシアを經由して輸入されたものではないかとみられる。当時、日本にとって最も重要な精糖輸入先はドイツであった。その輸入量は1904年に前年に比べて20万⁹減少しており、代わりに露領亜細亜から28万⁹輸入され

⁷ 22) - 576頁。

ているのである⁹。

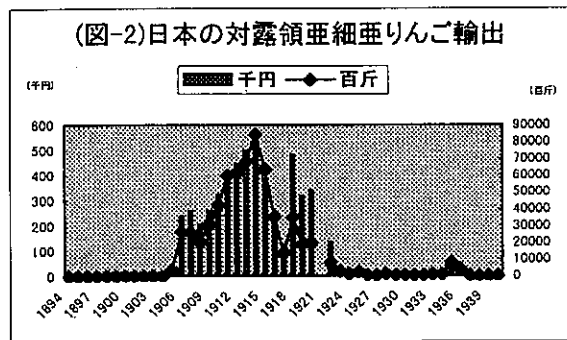
翌 1905 年に精糖輸入が激減した理由として、開戦の結果最恵国待遇が失われて国定税率が適用されたことが指摘されている¹⁰。

戦争終結後の日露貿易は第一次世界大戦まで低調であったが、唯一 1906 年には 1,200 万円の大台に達する貿易額を記録している。これは、1905～1906 年の不振から立ち直って日本の露領亜細亜向け輸出が急増したためであり、この年に日本は出超に転じ、以後 1921 年まで貿易黒字が続くことになる。1906 年の日本の輸出商品は精米、食塩、ビール、りんご、みかん、衣服および附属品、綿ブランケット、綿フランネル、タオル、石炭、革靴、陶器・磁器、雑貨等多岐にわたった。

1907 年以降の露領亜細亜向け輸出は、1913 年までじり貧傾向が続き、双方にとって余り重要な市場ではなくなった。とくに、露領亜細亜から日本への輸入が振るわず、わずかに大豆や豆糟の輸入が目立つ程度であった。これらの商品さえ、中華民国からの輸入であり、ロシア産のものではない。

1916 年までの日本の露領亜細亜向け輸出は低い水準にとどまっていたが、そうしたなかで注目しているのはみかん、りんごおよびたまねぎの輸出である。これらを合わせた露領亜細亜向け輸出額は 1900 年代初頭から増大し始め、1908～1909 年には同地域への輸出額のそれぞれ 15%、1910 年に

は 20%強、さらに 1911～1914 年の 4 年間は毎年 30%程度水準まで拡大した。これらの輸出額をみれば、みかんは日露戦争後の 1906 年から増加し、その後毎年 30 万円程度水準を維持し、1913 年には遂に 50 万円の大台に達している。この時期の露領亜細亜向け単一商品としては最大である。しかし、その後は徐々に少なくなったが、ロシア革命後のシベリア出兵の時期に再び増大し、年間 40～50 万円を記録した。しかし、輸出量が増大したわけではなく、シベリア出兵による特需で価格が高騰したことに起因している。りんごもみかんとほぼ同様の輸出傾向をもっており、その額は 1906～1910 年の年間 20～30 万円から、1911～1915 年の 40～50 万円に増大し、ロシア革命時に減少がみられたが、1918 年には 50 万円の輸出額を記録している。ロシア革命後のりんご輸出は価格の急増による



⁸ この時期の日本の石油（灯油）輸入相手国は米国であり、1904 年には日本の輸入量 8,170 万ガロンの 60%、1905 年には同じく 5,870 万ガロンの 63%、1906 年には 5,940 万ガロンの 75%を米国に依存している。日本の石油輸入量に占める露領亜細亜のシェアは 1904 年には 24%、1905 年には 22%であり、米国に次いで重要な輸入相手国であった。それが、1906 年にはわずか 2%のシェアに転落した。これを埋め合わせたのがオランダ領インドとイタリアである。1) - 明治 37 年、483 頁、明治 40 年、667 頁。

⁹ 1) - 明治 40 年版、486 頁。

¹⁰ 23) - 333 頁。

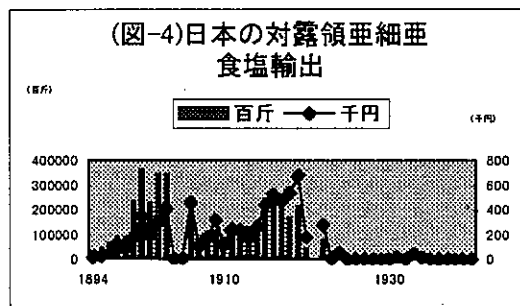
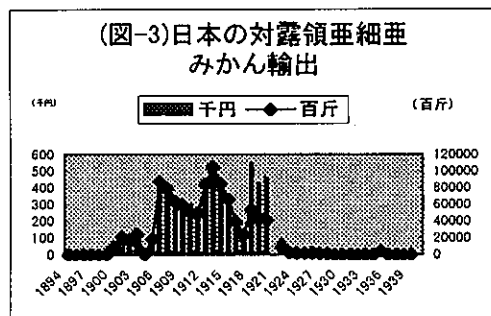
ものであり、1918～1920年にこの傾向が顕著に現れた。輸出数量は1910年代前半に比べれば半分に以下に減少しており、倍以上の単価の上昇がみられた。みかんやりんごに比べればたまねぎの輸出額は少なく、最高でも1913年および1918年に20万円の水準であった。1915年以降みかん、りんごおよびたまねぎの輸出額がそれほど大きく落ち込んだわけではないが、この時期に他の商品の輸出額が伸びたために、これら商品の輸出シェアは相対的に小さくなっている。

露領亜細亜向け輸出で1900年代前半に重要な役割を演じたのは食塩である。1900年代

初頭には年間30万円程度の食塩が露領亜細亜に輸出されており、当時は貿易額が小さかったためにそのシェアは毎年10%～18%に達していた。この時期には食塩の安値価格が維持された。日露戦争によって食塩輸出は途絶し、再開されたのは1906年になってからのことであった。ロシア革命期から1919年まで年間50万円程度、とくに1919年には70万円近い額が輸出された。この時期における日本の食塩輸出のほぼ100%は露領亜細亜向けであり、主として塩魚用に使用されたものであろう。革命後の混乱期に高値で輸出されている。

ロシアには良質の岩塩があるが、極東水域の漁場までは供給されず、供給源をより身近な日本に頼っていた。ここに計上されている輸出量はあくまでもロシア側に輸出されたものであり、この他、露領漁業用に大量に食塩が供給されている。

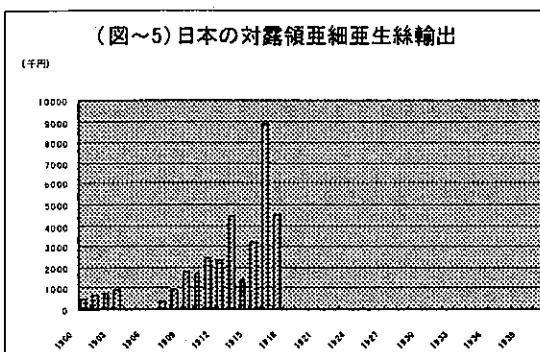
今日の日露貿易では、日本のロシアからの輸入商品のなかで石炭は重要な地位を占めているが、およそ100年前の1900年代前半には日本は逆に露領亜細亜向けに石炭を輸出しており、しかも重要な輸出商品であった。とくに、1901～1902年間および1910～1913年間には対露領亜細亜輸出額の10%程度を占めており、なかでも1911年には16%（輸出量は7万3,000ト）の水準まで達していた。過去最高の石炭輸出は1919年の14万ト、290万円であり、翌1920年には6万ト、130万円と半分



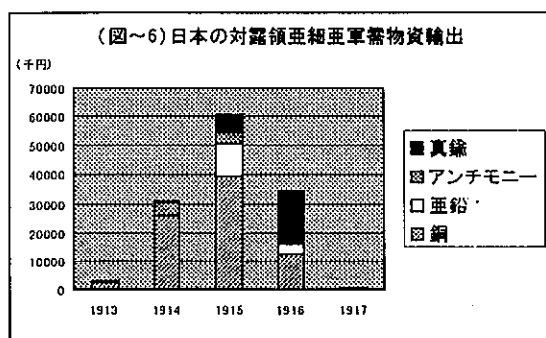
以下に減少した。石炭の露領亜細亜向け輸出が重要であるとはいえ、他の年は多くても年間 50 万円程度である。

次に日本の対露西亜輸出に目を通してみよう。1900 年代前半の露西亜向け輸出で最も注目されるのは生糸である。20 世紀に入ってから生糸を露西亜に輸出していた時期は短く、ロシア革命後には完全に輸出されなくなった。それまでは日露戦争後の一時期を除いて毎年対露西亜輸出額の 80~90% は生糸であった。このことは生糸を除けば日本から露西亜にはほとんど輸出されなかったことを意味する。生糸輸出額は 1900 年の 5 万斤、40 万円から漸次増加し、1903 年には約 10 万斤、100 万円に増大した。日露戦争による中断後、生糸輸出が復活したのは 1906 年のことであり、その後第一次世界大戦期の 1914 年を除いて、増え続け、1916 年には 70 万斤、890 万円を記録した。この数量・金額は過去最高であった。しかし、ロシアに革命の起きた 1917 年には 40 万斤、460 万円に減少し、1918 年からは全く輸出されなくなった。革命後の内乱とその後の生産財輸入による経済建設重視の方針のために、贅沢品である生糸は完全に市場を失ったのである。

日露貿易史上最も注目される出来事は、第一次世界大戦後からロシア革命後の内乱期にかけて貿易額が急激に増大したことである。これはもっぱら露領亜細亜向け輸出が急増したことによる。日本と露領亜細亜との貿易額は、1916 年には史上最高の 1 億 1,950 万円を記録した。



1915~1916 年の対露領亜細亜輸出は日本の輸出総額からみても大きな額であり、1915 年には 11.5%、1916 年には 6.2% を占め、輸出相手国としては米国、支那に次いで第 3 位にランクされる。今日までの日露貿易におけるおよそ 100 年の歴史のなかでこのような地位を獲得したことは一度としてなく、それは第一次世界大戦による徒花ともいえる性格のものであった。



1914 年 8 月のドイツのロシアに対する宣戦によって、ロシアはそれまで最大の貿易相手国であったドイツに代わって日本に供給源を振り向けた。その結果、日本からは銅、亜鉛、真鍮、アンチモニー等の軍需物資の輸出が急増した。1913 年まで全く輸出されていなかった銅及び製品 (銅塊、スラブ、板、線等) の輸出は 1914 年の 860 万斤、280 万円から 1915

年には5,000万斤、2,580万円、さらに1916年には5,970万斤、3,940万円に増大した。1916年のこの額は同年の露領亜細亜向け輸出額の33.5%を占めている。真鍮（條、板、製品等）の輸出は1915年になって急増し、170万斤、120万円から1916年には750万斤、780万円に、1917年にはさらに1,710万斤、2,100万円にまで増大した。亜鉛（塊、スラブ）の輸出が始まったのは1916年からであるが、同年の2,020万斤、1,130万円から1917年には一転して1,230万斤、390万円に減少した。アンチモニーの輸出は1914年に開始され、ピークの1915年には800万斤、440万円、翌年には580万斤、390万円を記録したが、その後は急減している。

上述の軍需物資は1915～1916年に集中して露領亜細亜に輸出されており、銅、亜鉛、真鍮およびアンチモニーの4品目で1915年には露領亜細亜輸出額の39.8%、1916年には51.5%を占めている。なお、この時期に日本からの露西亜向け輸出は小包郵便物と生糸でほとんど占められている。露西亜向け輸出で興味深いのは小包郵便物であり、1913年から増えだし、同年の20万円（露西亜向け輸出額の4.0%）から1915年には770万円（同68.5%）、1916年には2,400万円（71.7%）にも達し、その後1917年の850万円（63%）から1918年にはほとんどゼロになっている。第一次世界大戦からロシア革命にかけてシベリア鉄道経由で商品が大量に小包郵便物として輸送されたものとみられる。

『日本外国貿易年表』によればこの時期のロシア向け輸出はもっぱら露領亜細亜向けであり、欧露向けではなかった。ロシアは欧州からの供給源を絶たれていたのであるから、日本商品が欧露市場を埋めても不思議はない。統計上は仕向地が露領亜細亜ということになっており、実際には商品の多くが欧露に供給されたものとみられる。

第一次大戦後の1915～1917年にかけて軍需物資以外の商品の輸出も急増しており、なかでも薬剤、化学薬品は1916年には前年比4.8倍の1,090万円、マッチは同じく330倍の110万円、羅紗及びセルジスは1915年には前年比36倍の1,610万円、同年に靴が初めて輸出され850万円を記録した（表～6参照）。

1918年になるとロシア革命の影響を受けて多くの商品の輸出が激減したが、それでも革命後の内乱にもかかわらず日本の露領亜細亜向け輸出額は1918年には4,000万円から1919年には7,100万円に増大するるのである。1919年にはシベリア出兵によって輸出が増えたのであり、翌年にはニコライエフスク事件が発生して、両国関係はさらに悪化した。1919年には露領亜細亜向けに少量多品目の輸出が行われており、前年に比べて比較的目的を持って輸出が伸びた商品を列挙してみれば、精米17万円（前年比1.9倍）、緑茶10万円（同5.6倍）、清酒（3.5倍）、ガーゼ・脱脂綿・包帯150万円（16倍）、その他の薬材・製薬120万円（2.5倍）、縞木綿200万円（1.4倍）、綿フランネル200万円（1.6倍）、羅紗及びセルジス320万円（3倍）、綿メリヤス肌着430万円（20.5倍）、洋服400万円（77.4倍）、石炭290万円（6.2倍）等である。当然のことながら、戦時下における日本兵のための食料品、医療品、衣類の輸出が目立っている。

1920年代に入ると社会主義建設のためにまずソ連の輸出が重視されるようになり、日本

との貿易にも反映されて、日本の露領亜細亜向け輸出は年と共に減少していった。停滞する日露貿易にやっと光が差し始めたのは 1925 年に日ソ基本条約が締結されてからのことである。

露領亜細亜向けの港湾別輸出をみれば、当然のことながら日本海港湾の利用度が高い。特徴的なことは 1900 年代前半には函館の輸出額が圧倒的に大きく、1914 年から 1920 年にかけては敦賀港の重要性が際立って高いことである。函館の輸出額が増加し始めたのは 1894 年（明治 27 年）からであり、1903 年には日本の対露領亜細亜輸出の 50%弱を占めるほどになった。しかし、その後輸出は 1906 年の 90 万円（対露領亜細亜輸出額の 8.4%）をピークとしてほとんど振るわず、かつての繁栄は風前の灯火となった。函館港が再び活況を呈するようになったのは、日ソ基本条約が成立し、函館に通商代表部支部が設置されてからのことである。函館は露領亜細亜からの輸入で、1900～1903 年には日本のこの地域からの輸入額の 4 割を占める程であった。この時期に主として塩鮭及塩鱒、魚糟が輸入されている。

第二次世界大戦前の日露貿易で主導的な役割を演じたのは敦賀港である。とくに、1914 年から 1920 年にかけて日本の対露領亜細亜輸出額の半分近くを敦賀一港で占めている。表～8 から表～11 には 1913 年までの敦賀港の輸出入額が計上されていないが、1902 年にはウラジオストクから敦賀に寄港する船が就航しており、日露戦争の中断後、1907 年には敦賀～ウラジオストク直通定期航路が大阪商船によって開設された。

2) 日ソ基本条約締結以後 1945 年までの日露貿易

日ソ基本条約が締結され、日本にソ連の貿易代表として通商代表部が設けられた 1925 年から北満鐵道買収が実現する直前の 1934 年までの時期は、社会体制の異なる両国間の貿易が最も正常な形で運営されていた時期であった。この間の両国間貿易は一貫してソ連の輸出超過であった。貿易額をみる限りではソ連の貿易政策が見事に写し出されている。ソ連の輸出の基本的な任務は輸入代金の獲得にあり、社会主義建設の速やかな実現に向けて国民経済の工業化と技術的・経済的独立性確立のために外国商品を利用するのであり、輸出額の範囲内でしか輸入は行われぬ。この方針の下に貿易実務に従事したのが駐日ソ連通商代表部である¹¹。この組織が設立され、ソ連の国家機関から派遣された代表部員が

¹¹ 日ソ基本条約の第 4 條で通商航海条約の締結交渉を行うことが約束され、これに基づいて駐日ソ連通商代表部が設立されるはずであった。しかし、交渉が進展しないために、1925 年（大正 14 年）5 月にソ連政府は佐藤在ソ代理大使を通じ、大使館の一部を成す通商代表部東京本部を設けたい旨提案してきた。ソ連側の要求の骨子は、建物は治外法権を有する、通商代表部員は外交特権を有する、通商代表部員は日本との貿易及び経済発展の援助、貿易の調節に関する事務を行う等であった。日本政府は大使館並の待遇には反対し、度重なる交渉の結果大正 15 年 6 月 23 日、日ソ双方は記録書に署名した。その重要な点は以下である。

(一) 在本邦「ソ」聯邦通商代表部ノ職業ハ (イ) 日「ソ」兩國間ノ貿易及其他ノ通商關係ヲ促進便宜ナラシメ (ロ) 輸出入ヲ調節シ、(ハ) 「ソ」聯邦ノ為商取引ヲ為ス

商談にあたることになったことから、ソ連側との交渉はより円滑に行われるようになった。

しかしながら、貿易の国家独占体制による業種別窓口の一本化とその出先機関である通商代表部との取引形態は、日本の業界の競争を利用した価格面での厳しい要求を突きつけることとなった。露国日本大使館参事官の酒匂は大阪市役所産業部での講演でロシアとの貿易の先輩格である英国の「アルコス」の例やドイツ国内のロシア国家企業の出先機関が30を超え、ドイツ商社のロシア・ビジネスの活発なことを紹介している¹²。また、国家貿易にどう対処すべきか、つまり自由競争に任せるべきか、あるいは自由競争に任せれば、結局粗製濫造に陥り市場を失うことになるから、協調的な輸出組合をつくり、ロシアの大量注文に応じるべきかという問題に対して、酒匂は「輸出組合の設置はまだ検討の余地がある」と述べている¹³。

日本と露領亜細亜との貿易は、両国関係が改善されたことによって1925年の1,780万円から1934年には4,410万円へと着実に増大した。この間の貿易は日本の大幅な入超を基調としている。この時期の露領亜細亜からの主な輸入品は鹹魚（塩魚）、石油及び木材といった商品である。鹹魚の輸入が再開されたのは1928年からであり、翌々年の1930年からは年間900万円の水準に達し、さらに1934年には1,080万円と過去最高を記録した。これによって露領亜細亜からの輸入額に占める鹹魚のシェアは1928年の5.5%から1934年には32.9%まで拡大した。日本は塩鮭及塩鱈を露領漁業で大量に輸入しており、これは特殊貿易として扱われている。1913年以来『日本外国貿易年表』から消えていた塩魚（鹹魚、塩鮭及塩鱈）が1928年から1935年までなぜ普通貿易として再び登場してきたのか。仕入れ港がウラジオストクおよびニコラエフスクになっているために普通の輸入と

(二) 通商代表部員ハ大使館商務参事官及商務書記官ニ任命セラルコトヲ得ヘク右商務参事官ハ一名
商務書記官ハ三名以下トシ、従的資格ニ於テハ外交上ノ特権ヲ享有ス

(三) 通商代表部員ハ本邦ノ法律及裁判権ニフクス。9) - 106 ~ 111 頁。

ソ連通商代表はソ連邦大使館附商務参事官として外交官の待遇を受けているが、通商代表部そのものは何ら特権はなく、一商事会社と変わりない。駐日ソ連通商代表部東京本部に次いで、函館、大阪及び大連にも支部が開設された。

通商代表部東京本部設置後間もない1927年2月14日付けで、駐日ソ連通商代表首席は内国貿易副人民委員 K.G. マクシーモフ宛に「日本の通商代表部を東京から神戸に移転させる問題に関する会議のプロトコール」を送っている (f.5240, op.18c, ed.khr.392)。その内容は木材と魚の部門の担当官では意見が分かれるが、結論として神戸は木材を統制するのに適しており、発展の余地が大きく、経済的にプラスになる判断された。1924年に神戸の鈴木商店が露領材の大型輸入を始めたのが発端であり、当時日本の露領亜細亜からの輸入は木材に大きく依存していた。

これに対し、マクシーモフは1927年3月15日付け手紙で、ステータスの変更は難しいこと、東京にはコンツェルンや三井、三菱、久原など重要な業者が集まっていること、利権の問題は常時企業や政府と接触する必要があり、これらの解決に東京は便利である、として駐日ソ連通商代表部の見解には完全に同意できないと移転に反対している。結局、移転は成功しなかった。

¹² 18) - 24 頁。全露株式会社「アルコス Arkos」は1920年6月、ロンドンに設立された。19) - f.3270, op.1, d.80。1921年3月16日にはソ英間に通商協定が調印され、「アルコス」を中心に活発な貿易活動が展開された。1923年3月6日にはソ連領内に「アルコス」のエージェントを開設することが認められ、1924年半ばまでにモスクワ、レニングラード、ハリコフ、チフリス、オデッサ、ロストフ・ナ・ドヌー、キエフ、ノヴォロシスク、バツミ、バクー、ポチに支店が誕生した。モスクワとレニングラードの輸出業務は余り大きなものではなく、活動の拠点はコーカサス周辺にあった。石油ビジネスによるものであろう。1927年3月には英ソ国交断絶で「アルコス」理事会はモスクワ支店の閉鎖を決め、同年10月までオフィスは業務を行った。19) - f.3270, op.1, d.759。

¹³ 18) - 28 頁。

して扱われたものと推察される。

1927年から石油製品（灯油）の輸入も再開された。この輸入も鹹魚と同様の輸入傾向をもっており、1933年のピーク時には940万円を記録し、同年の露領亜細亜からの輸入額の30.3%を占めた。しかし、石油製品の輸入も1936年からは全く輸入されなくなった。

統計上大豆、豆糟及び獣骨肥料用が露領亜細亜から輸入されているが、仕入れ港としてウラジオストクを使用しているために計上されているに過ぎず、実際には満州からの輸入である。

1930年代後半にみられた日ソ間の政治的決着が貿易面に如実に現れたのは北満鐵道の買収に伴う代償物資の供給が行われたことである。1935～1937年の3年間は日本側の大幅出超に転じ、それ以前とは様変わり姿を描いた。北満鐵道買収の発端は1932年8月29日の在ソ連広田大使とソ連外務人民委員カラハンの満州国商人問題、東支鐵道問題等に関する意見交換である¹⁴。1933年（昭和8年）5月になってソ連政府より正式に鐵道を日本国又は満州国に譲渡する提議があり、帝国政府は審議の結果、日本ではなく直接利害のある満州国が買収したい旨ソ連政府に申し込んだところすぐに返事があり、同年5月23日の廟議で東支鐵道が経済的に価値があることやこの鐵道が「赤化宣伝」のための有力な足場を提供してきていることから、経済的・政治的にも有利であり、鐵道及び一切の付帯事業の買収を行うことを決定した。

ソ連側は交渉開始当初、鐵道とその付帯事業一切の譲渡価格2億7,000万金ルーブリ（6億2,500万円）を提案してきた。満州国は5,000万円を提示し、両者に大きな隔たりがあった¹⁵。

1933年6月27日の第一回正式会議を皮切りに、厳しい交渉が繰り返された。

1935年3月23日、北鐵譲渡協定が満州国政府とソ連政府との間に調印され、日本政府とソ連政府との間に支払い保障に関する交換公文が東京で調印された。協定によって、ソ連政府は北満鐵道（東支鐵道）の一切の権利を日本国通貨1億4,000万円で譲渡することになった（第1条）。この額のうち4,670万円は現金支払い、残る9,330万円は物品で支払われることとなった（第7条）。物品引き渡し分9,330万円

（表～1） 北鐵代償物資承認額

	金額（千円）
承認総額	92,517
第1期	13,208
第2期	16,784
第3期	15,891
第4期	16,126
第5期	15,104
第6期	15,404

（出所）『日露年鑑』1942年版、欧亜通信社、

999頁

¹⁴ 大使は「両国間ノ空氣ハ好シ之ヲ利用シ極東方面ノ關係ニ付画期的大事業ヲ為スコトモ困難ナラス」と語った。これに対しカラハンは「如何ニセハ画期的事業ヲ成功シ得ルヤ」と質問、これに対し「端的ニ言エハ東支ヲ日本ニ売ルコトナリ」と答えた。カラハンは個人的な意見として政府より全権を受けて、正式交渉を行いたいと述べた。5) - 293頁。

¹⁵ 5) - 298頁。

は6カ月均等割りされ、各年の6カ月あるいは1年間の引き渡し額は3,110万円を越えてはならないとされている(第9条)。

上述の枠組みで実施された代償物資の引き渡しにあたって、実際には相当多数のトラブルが発生し、完了期限の1937年3月22日は1938年末でやっと完了した¹⁶。駐日満州国財務官の発表では、1937年9月時点で承認件数は839件、承認総額は9,251万7,000円であった。表~2にみるように、ソ連の技術装備を高めるような機械類や船舶類の輸出の割合が高く、機械類では移動式発電装置、電動機、発電機、変圧器、電気溶接機、電気起重機、各種ディーゼル機関、車輪、旋盤、ポンプ等である。船舶類は川崎船、蟹漁船、カッター、等の生活必需物資が供給される一方、人絹、織物類が輸出されて日本製品を身につけたロシア人がモスクワのメインストリートを闊歩する姿がみられたという。このいわば奢侈品はモスクワ政府が仕入れ値段よりはるかに高価な価格で市民に販売することによって国庫収入を増やすことを目的としたものであった。

(表~2) 北鐵代償物資内訳

1935~1937年間に日露貿易は北鐵代償物資取引の増大で日本の露領亜細亜向け輸出額は1934年の1,140万円から1935年には2,620万円(前年比2.3倍)に急増し、その後1936年には2,300万円、1937年には2,390万円となった。一方、日本の露西亜向け輸出もこの時期に増大し、1935年には前年比30%増の210万円、1936年には840万円を記録したが、1937年になると410万円に減少した。北鐵代償物資の供給拡大を契機として、日本の技術商品が広くソ連に紹介されることによって今後の日露貿易発展の絶好の機会となるはずであった。ところが、1936年に外国貿易人民委員の「1938年度より開始の第3次5カ年計画では外国品の輸入を完全に封鎖する」という報告があり、日ソ貿易拡大機運に冷や水を浴びせることとなった¹⁷。さらに国際情

	金額(千円)
承認総額	92,517
機械類	18,452
船舶類	18,334
小麦粉	1,857
大豆及び大豆油	9,224
緑茶	7,820
銅線類	8,544
セメント	5,968
ロープ類	5,167
帯鐵及び鐵板類	2,733
織物類	5,235
人絹	1,805
其他	7,378

(出所) 表~1に同じ

¹⁶ 交渉成立後、ソ連側が支払うべき債務を支払わないため、1938年3月17日、満州国外務部ハルビン特派員はソ連総領事にたいし、債務を支払わなければ債権確保のために最終金400万円の支払いを停止する旨を申し入れた。ソ連側は「代償金は不可侵であり、割賦金の支払いを受けた後に満州国側の対ソ債権を検討するべき」と述べた。折しも、同年11月、漁業条約問題に関する日本側の申し入れに対し、ソ連政府は割賦金解決が先決として漁業条約交渉を中断させる手段にでた。日本側は漁業問題と全く無関係で筋違いであると応酬、対立のまま翌年に持ち越された。その後漁期を迎え漁業条約交渉の必要上、積極的に満州国側に斡旋する方針をとり、折衝を重ねた結果、北鐵代償金支払い問題が最終的に解決したのは1940年1月のことであった。満ソ間で懸案となっていたソ連に対する最終割賦金580万9,000円に利子及び北鐵譲渡協定金約款による増金と満州国が受領すべき対ソ請求額約128万円を相殺し、残額452万9,000円をソ連に支払うことになり、その3分の2は物資取引(マニラロープ1,300t、ワイヤロープ600t、人絹糸1,000t、自動車用タイヤ1,500t)であった。3)一昭和19年版、1068~1069頁。

¹⁷ 3)一昭和16年版、892頁。

勢は風雲急を告げ、1936年11月締結の日独防共協定はソ連を刺激し、さらに翌1937年6月の乾岔子島事件、日華事変、1938年7月の張鼓峰事件によって日ソ間を取り巻く環境はにわかに複雑化した。そのために日露貿易は1938年になると急激に縮小することになる。1938年の日本の露領亜細亜向け輸出の3割にあたる150万円は緑茶であり、科学機器類150万円、起重機40万円等470万円が輸出されたに過ぎない。

同年の露西亜向け輸出額は50万円であった。1938年の日本の輸入をみれば、露領亜細亜及び露西亜からそれぞれ40万円であった。主な輸入品は木材、サントニン及び石炭である。

1939～1940年になると露領亜細亜及び露西亜との貿易はほとんど完全に絶たれることになる。唯一、1940年の露領亜細亜との貿易で日本の輸出は370万円を記録した。

輸入面での特異な存在はサントニンである。ソ連産の回虫駆除薬サントニンは、江戸時代からサントニン抽出の原草であるセメン・シーナの名で知られ、日本に輸入されてきた¹⁸。1929年来三井物産はソ連産サントニンの独占販売権を所有していたが、1931年以来ドイツのシーリングム・スルバム社、英国のメー・アンド・ベーカー社、米国のアメリカン・サントニン・コーペレーション社が対日ダンピングを行い、ロシア産とみられるサントニンが大阪の武田、塩野義商店に大量に納品され、それまでの三井物産の1カ年契約、融資による委託販売は中止せざるをえなくなった。

緊迫した国際情勢の下で日ソ関係が貿易経済面でも没交渉に陥ることは好ましいことではなく、ノモンハン停戦協定成立後、両国間の関係改善の気運が高まり、1939年11月、駐ソ東郷大使はモロトフ外務人民委員と会談し、日ソ通商協定締結交渉を開始することで意見の一致をみた¹⁹。翌1940年1月に松島スエーデン公使は東郷大使を補佐し、ミコヤン外国貿易人民委員その他関係者と本格交渉に入ったのである²⁰。1941年6月11日、通商協定及び支払い協定交渉妥結に関する共同コミュニケが発表された。協定の有効期限を5カ年とし、自動延長されることになった。この時に妥結された貿易及び支払い協定は1カ年とし、その間の日本の輸出は生糸、繭、機械及び器具類、樟脳油、雑貨及び其の他合計3,000万円、輸入は石油、満俺鉍、白金、肥料及び雑品等合計3,000万円、輸出入合計6,000万円とされた。しかし、独ソ戦の勃発によって折角の協定も流産してしまったのである。

¹⁸ 2) - 昭和11年版、203頁。

¹⁹ V.I.コチエトーヴァの「日ソ貿易に関する全ソ商業会議所通達」(1936年2月22日付)のなかで「日本との貿易拡大のためには法的基盤の創設が必要であることを日本の実業界に提起している。日本のビジネススマンは、日ソ間に通商条約があればという。この問題は非常に重要であり、詳細に検討する必要がある」と記している(f.413, Op.13, d.1358)。

²⁰ 日ソ通商航海条約締結交渉にあたって日本側是最恵国待遇の約款設定を重視したが、ソ連側はこれに反対した。ロシア国家経済文書館の非公開フォンドには、日本との通商条約締結交渉にあたって省庁間特別委員会が作成した基本規定案の作業課程の一端を述べた手紙がある(f.5240, op.18c, ed.khr.392)。それによると、ソ連は最恵国待遇については一般的な形態を望まない。ソ連側の関心のある問題での最恵国待遇で十分である。法人格の権利についてはソ連・トルコ通商条約8条をそのまま取り入れている。課税についてはドイツとの税協定第1条に基本的に準じている。通商代表部の治外法権については委員会としては未解決のままである。貿易規則についてはドイツとの経済協定第12条、21条および22条を日本に提案することを決定した。ソ連が条約作成で何を考えているのかを知る上でこの手紙は大変興味深い。

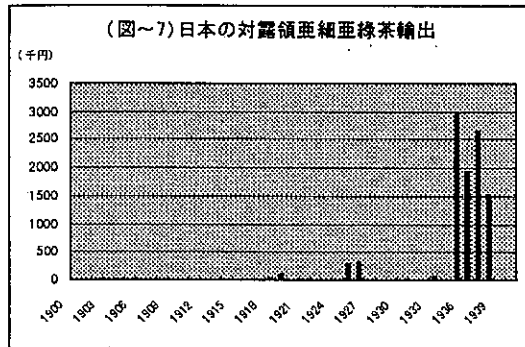
3. 対露主要輸出品動向

1) 茶

ロシアは茶の一大消費国であるが、コーカサス地方の黒海沿岸で茶の栽培を始めたのは19世紀末のことであり、当時、消費量のほとんどは輸入に依存せざるを得なかった。消費量は年間平均450万布度にも達しており、主として清国、

東インドから輸入され、紅茶は主に欧露及び西シベリアで、磚茶はシベリアで、緑茶のほとんどは中央アジアで消費された²¹。紅茶は中流以上の飲料として利用され、磚茶はシベリア以外の地域でも庶民の飲料として、また緑茶は中央アジア以外にカスピ海や極東のウスリースク地方並びにシベリア地方に住むアジア民族の飲料として利用された²²。K・スカリコフスキーは、1883年出版の著書の中で、「日本から輸出を期待しうる品目として緑茶と磚茶をあげ、アムール河経由で緑茶の消費地、中央アジアに日本産の緑茶を輸入する可能性と、さらに日本国内で磚茶製造の道を開いた上、中国産の磚茶よりも安く輸入する可能性」を指摘している²³。日本の茶業者はロシアの市場参入を狙ってしばしばロシアを訪問したが、一人として成功しなかった。せいぜい九州の製茶会社がウラジオストクに売店を設けたり、台湾茶株式会社がロシアに売店を開き、茶の販売に従事したが、前者は日露戦争によって閉鎖され、後者もその後閉めざるを得なくなった。ロシアで茶の輸出が振るわなかったのは、両国間の政治状況によるものばかりでなく、日本茶がロシア人の嗜好や契約条件に合わなかった面も否定できない。

「露人ノ言ニ徴スレハ本邦茶ノ飲點ハ其ノ香味薄弱ニシテ浸液濃厚ナラサルニ在リ而シテ取引ノ際本邦茶ハ見本ト符号セサルコト多ク且ツ本邦茶業者ハ多數ノ注文ヲ受クル場合ニ於イテ一定ノ期限内ニ之ヲ



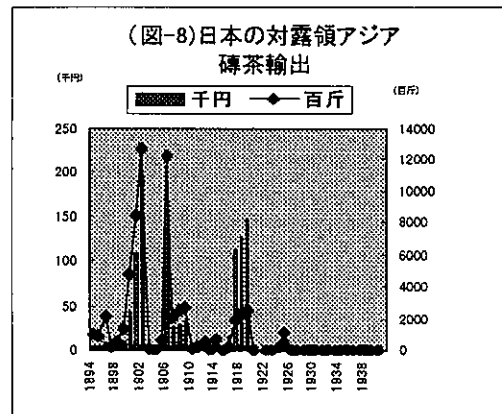
²¹17) - 106 頁。このうち支那茶の輸出货量がもっとも多く、漢口製茶所のロシア人保護のために低減運賃の特典が与えられ、また漢口茶がロシア人の嗜好に適していた。6) - 86 頁。

²²6) - 86 頁。

²³4) - 79 頁。

供給シ得タルコト稀ナリト云ウ」²⁴。後年（昭和5年）になって、日本の茶の品質について、「ツエントロソユーズ」の茶方シェーニング氏は「形状は申し分ない、色澤はもっと黄味を要求するが消費者が慣れてきたから人工を加へても努むる必要はない、水色、香味は大體變質しなければよろしい」と肯定的に評価している。しかし、大正初期の緑茶はほとんど露領在留邦人の需要によるものであった²⁵。原は『茶の世界史』（角山栄、中公新書）を引用して、「日本の磚茶製造とそのロシア市場への売り込みについては、1902年にピークを記録したのち、完全な失敗に帰したことを指摘しておこう」と述べている²⁶。確かに、1902年に露領亜細亜向けに130万斤、約20万円を記録したのち、1903～1904年にほとんど輸出されなくなった。しかし、『日本外国貿易年表』を見る限り、1905年から復活し、1906年には120万斤、15万円まで回復し、その後は細々と輸出が続いた。緑茶についてみると1925～1926年には一時的な輸出がみられたが、その後は頓挫し、1935年になってから940万斤、300万円を記録し、最も重要な輸出商品のひとつに成長した。

1930年代後半に入って日本の対ソ緑茶輸出を急増させた主因は、緑茶が北鐵代償物資取引商品として扱われるようになったことにある。1935年から1937年にかけて北鐵代償物資取引の枠内で輸出された緑茶（承認額）は合計780万円であり、同時期にソ連に輸出された緑茶は960万円であり、実に緑茶輸出の8割強は北鐵買収のお陰で輸出されたことになる²⁷。この時期にはソ連は日本の茶業界にとって重要な顧客であり、日本の



緑茶輸出の2～3割強はソ連向けであった。日本にとってソ連は米国に次いで重要な市場になっている。北鐵代償取引とはいえ、ソ連向けに緑茶が大量に輸出されたことは、とりわけ静岡の茶業者に大きな期待を抱かせることとなった。しかし、1938年には日ソ関係の悪化によって前年比約7割減の150万円まで落ち込み、期待はもろくも崩れ落ちた。ソ連は支那茶の輸入を復活させ、自給自足体制の確立方針のためにコーカサス産の茶生産を重視したことも日本からの取引削減を加速させることとなった。

北鐵代償取引で生じたもうひとつの変化は、ロシアとの静岡緑茶の初期取引に介在していたアーウィン商會を初めとする外商が仲介取引から排除されたことである。茶取引に活躍したのは、岩井商店、日本茶直輸出組合、丸三製茶合資会社、栗田貿易会社、駿静製茶合資会社、若林商店、三井物産等であり、1937年までには駐日ソ連通商代表部の茶業官（買

²⁴17) - 107頁。

²⁵17) - 108頁。

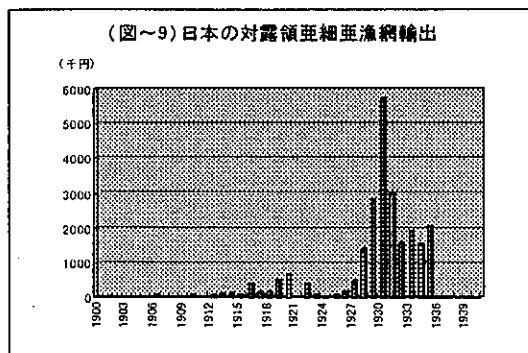
²⁶4) - 80頁。

²⁷3) - 1942年版、999頁。

付検査官)が静岡に赴き、商談を行うのが常であった。契約は時がたつにつれてソ連の条件が厳しくなり、1938年度契約は清水港積み出しと同時に契約額の8割を支払い、ウラジオストク陸揚げ後残り2割を支払うことで成立したが、実際にはソ連側は商品に対しさまざまなクレームをつけ、2割の値引きを要求し、結局1.5割前後で成立するのであった²⁸。ソ連側は価格に対してはこのようなしたたかさな商取引を行ったが、一貫していたわけではなく、むしろ買付の時期を逸して、品不足のために予定量を買付けできなかつたり、冷害による生産不足のための価格暴騰という条件下にもかかわらず安値買付に執着して、商談が進まなくなるケースが多々見られた。このような買付の失敗のためにソ連の茶業主任ジュイコフ氏が1936年に本国に召還されたのはその典型的な例であった²⁹。

2) 漁業関連用品

漁業を取り巻く日露関係は歴史的にみて、最も深く関わりをもち、また複雑に錯綜しており、露領漁業に代表されるように日本の漁民が露領域で操業する漁業から、漁網、漁船、漁具、漁網原料としての綿糸、縄索、かます及びむしろ等の漁業用品の輸出、買魚に至るまで多岐にわたっている。日露関係のなかで漁業は共通の海を分かち合う日露双方にとって最も重要で、それだけに幾多の問題を内在しており、この基本的な構図は現在まで維持されているのである。なかでも露領漁業の問題は日露関係の歴史をみる上で極めて興味深い。本稿の主旨ではないので触れない³⁰。漁業関連用品の対露輸出の花形は漁網であり、対露領亜細亜向けに輸出が開始されたのは1904年のことである。その後20年余り大きな伸びを見せることなく続いた輸出も、1928年を境にして1935年まで対露領亜細亜輸出の最重要商品として貢献することになる。その輸出額は1927年の50万円から翌年には3倍の140万円に、さらに1929年には前年比2倍の280万円を記録した。



この額は同年の対露領亜細亜輸出額の19%にあたる。漁網の輸出額は1930年の570万円(輸出額の21%)をピークとしてその後は年間150~200万円の水準を維持したが、1936

²⁸3) - 1939年版、1190頁。

²⁹3) - 1939年版、1190頁。

³⁰ この分野の歴史研究は、鈴木旭の13) - 149~188頁、575~616頁、1179~118頁やA.T.Mandrikの"istoriia rybnoi promyshlennosti rossiiskogo Dal'nego Vostoka" Vladivostok, 1994にまとまった研究成果がある。北洋漁業は一般には北緯50度以北の日本海、オホーツク海、ベーリング海における操業であり、経営の種類からみれば日本側経営漁業としては露領漁業、公海漁業、北千島漁業、ソ連側経営漁業としてはソ領漁業、公海漁業に区分される。このなかで歴史的にも経済的にも最も重要性の高いのは露領漁業であり、その発端は江戸時代末期にさかのぼることができる。露領漁業が漁業権として露領内での操業を正式に認められたのはポーツマス講和条約調印以後のことである。

年になるとほとんど輸出されなくなってしまう。漁網輸出のピーク時には漁業用に利用される麻縄類や縄索、帆及筥の輸出も増大しており、これらを合わせると 1931 年に対露領亜細亜輸出額の 3 分の 1 占めることになる（表—4 参照）。ほぼこの 10 年間の漁網輸出の急増はどのような背景で起きたのだろうか。

第一はソ連の需要が喚起されたことである。漁網の輸入量の増大はソ連の漁区の拡大と直接結びついている。1928 年に日ソ漁業条約が調印されるまでは北緯 50 度以北の北洋漁業では日本側漁業がほとんど独占に近いほど優位に操業を行っており、ソ連側漁業はほとんど太刀打ちできない状況にあった。それは、ポーツマス条約によって日本にソ連漁区での操業を認めさせたことで、ソ連側はある程度納得せざるをえなかったことや漁業技術や経営面で立ち後れ、漁具が不足していたことに起因している。ソ連側が日本人の操業に加わり、徐々に技術を習得していき、彼らが力をつけてくると、当然のことながら漁区を取得したくなる。漁業条約調印の 1928 年時点では日本側は 239 漁区であったのに対し、ソ連側はその 5 分の 1 以下のわずか 42 漁区にすぎなかった³¹。漁業条約批准によって 1929 年にはいよいよ日本漁業者が出漁することとなったが、その初年度にソ連側から冷凍冷蔵以外の製魚禁止、漁労及び陸揚げの際の機械使用禁止、漁期の短縮等の出漁条件が出され、日ソ間で意見が対立し、紛糾した。この対立は、外務省通商局と駐日トロヤノフスキー大使との折衝の結果、ウラジオストクにおいて漁区を競売する形で妥結したのである。ところが、この競売で起きた日本側の漁区獲得の争いがソ連側に漁区拡大の絶好の機会を与えることとなる。競売で宇田寛一郎が優秀漁区 88 カ所を高値で落札したことから、日本側の内部で紛糾することとなった³²。このことがソ連側につけいる隙を与えることとなり、この事件を契機にソ連側は漁区を一挙に 162 漁区に拡大したのである。

日本側は漁区を失ったが、ソ連側の漁区の拡大は、漁業用品の製造基盤が弱いソ連に日本からの輸入を促すこととなった。当時、鮭鱒網、鯉網、鯨網及び鯨網等はカムチャッカ、オホーツク及び沿海州の海域で、蟹網はカムチャッカおよび沿海州の蟹漁場で使用されていた。蟹網は蟹工船の出現で沖取りでより使用されるようになった。

漁網の需要は極東海域のみならず欧露でも見込まれた。1929 年末に最初の試みとして駐日ソ連通商代表部の注文に応じて三重県の東洋漁網商會が 50 万円相当の漁網を輸出したのを契機として、カスピ海を中心に瓦斯糸の刺し網の需要が増大した³³。

第二の輸出増大の理由は漁業製品にも輸出補償法が適用されたことである。1930 年 5 月に「輸出補償法」が制定された。当時、6 カ月延べ払いの条件でソ連側と取引していたが、通商代表部の振り出しの約束手形は信用がなく、日本の銀行はどこも引き受けなかった。この報償法によって損失の 100 分の 70 を限度として国が銀行に対して補償することを定めた

³¹ 3) —昭和 19 年版、676 頁

³² 3) —昭和 19 年版、677 頁

³³ 2) —1931 年版、280 頁。

ことによって、安心して輸出できるようになった³⁴。もちろん、このような補償は保険的な性格をもつものであり、リスクを回避する手段であり、補償される全体の金額にも限界があった。補償法による買い取り手形は、1930年度漁網 32 万円、1931年度漁網 27 万円、マニラ・ロープ 57 万円、1932年度漁網 48 万円、マニラ・ロープ 32 万円、空罐 34 万円、1933年には漁網 10 万円、マニラ・ロープ 66 万円、空罐 60 万円となっている³⁵。漁業関連用品の輸出にどの程度対ソ補償額が適用されたかをみれば、1930年度には補償額全体の 49%、1931年度には同じく 29%、1932年度には 30%、1933年度には 37%であり、このシェアは総じて緑茶業者の補償比率に匹敵するほどであり、輸出業者がいかに補償法の恩恵を受けたかが明らかとなる。しかし、1934年になると漁業製品に対する「輸出報償法」の適用はほとんど皆無となった。北鐵代償物資による支払いになったために、駐日ソ連通商代表部が約束手形を振り出す必要がなくなったからである。

第三の増大の理由は、北鐵代償物資として漁業関連用品が計上されたことである。北鐵代償物資の枠内でどの程度の漁業用品が輸出されたかは、ロープ類 520 万円（総額の 6%）を例外として漁業関連用品として分類されていないので明らかにすることができない。船舶類としては蟹船、巾着網・流瀬網用船、綿糸類とトワイン、その他としては浮標等がかなりの金額輸出されており、北鐵買収が漁業用品の輸出にかなり貢献していることは明らかである。

ところで、漁業関連用品の対ソ輸出の特徴は、供給元が日本各地に散らばっており、漁業に強い港が広く利用されていることである。漁網及び綿糸は、伊勢方面では平田製網會社、山本重治郎商店、網勘製網會社、三重製網合資會社、大野作左衛門商店、内外製網會社、函館では函館製網船具會社、北陸では金澤高林商店、敦賀葉加瀬商店等で主に製造されていた。函館にはこの他日本漁網船具會社、鎌重支店、岡本与三八商店、共同漁網等があり、駐日ソ連通商代表部が函館で調達した物資は主に漁業用品であり、とくに漁網、鉄製品、漁船であった。漁網だけを取り上げても、函館港からの輸出額は 1928～1930 年間には対露領亜細亜向け輸出額の 4 割に達する。函館には駐日ソ連通商代表部支部があり、この機関がもっぱら買付を行っていた。しかし、1931年になると函館支部は手形決済期間を東京の通商代表部並の 9 カ月から 1 年に延長するように要求し、これに対し函館業者側は 3～6 カ月を主張し商談が難航した。その結果、ソ連側はより有利な条件を求めて他の地域から調達するようになったために函館業者の取引は次第に減少することとなった³⁶。これに対して、小樽は関係官庁がなかったために函館に遅れをとっていたが、露領沿岸の漁場に近いことから次第に小樽港からの漁業用物資の輸出が増えるようになった。とくに、「北海製罐會社ノ小樽ニ設置セラシ年々八十萬箱六千萬箱個ノ空罐ヲ輸出セラレツ、アルガ如キ以テ漁業策源地トシテノ小樽ノ価値ヲ雄辯ニ語ルモノト見ルベキナリ」と、小樽は漁業資材供給基地として重要であ

³⁴3) - 1938 年版、1032～1033 頁。当時の日露協会会頭の後藤新平は、1929 年の議会上に「對露輸出補償の制定に關する建議」を提出し、至急制定の必要性を説いた。

³⁵3) - 1938 年版、1033～1034 頁。

³⁶13) - 591 頁

ることが指摘されている³⁷。

対ソ主力輸出品に成長した漁業関連用品も 1931 年に入って減退の兆候を示すようになり、1936 年になると、ほとんど輸出されなくなってしまった。1930 年代初期の減少の一因は、欧露に輸出していた瓦斯網が国内で自給できるようになったことと極東海域で使用してきた漁網も徐々に国産品に転換されるようになったことである。この他、ソ連側が支払い条件で日本に不利な条件を提示するようになってきたことも輸出抑制の原因となった。初期の頃には千円未満であれば現金払い、千円以上は三ヶ月の延べ払いという条件が通商代表部の開設後は 6 カ月延べ払いとなり、さらに 1931 年からは 9 カ月、1932 年からは 12 カ月になったのである。この要求はとどまるところを知らず、1934 年になると駐日ソ連通商代表部はロープおよびトワインの買付にあたって 15～18 カ月の延べ払いを要求してきた。日本企業は延べ払いを望まないがさりとて輸出をしたいということから業者間の抜け駆けが熾烈になり、遂に 15 カ月を認める結果になった³⁸。漁業関連の輸出減少について、ソ連側は日本側のクレジット条件が厳しいことと 1932 年に日本の対露輸出組合がソ連側の容認しがたい条件を設定したことにあると主張している。

漁業関連用品の対ソ輸出は、貿易の国家独占の下にソ連側の窓口が一本化されているために、ソ連側の厳しい要求に対し、自由競争の日本業者は激しい売り込み競争を展開する余り、価格を落とし、品質を下げることを繰り返し、しまいには市場を失うという危険にさらされてきた。そこで商工省は「輸出組合法」を適用して営業上の弊害を矯正することになったのである。1932 年 4 月には漁網（綿糸類を含む）をソ連に輸出するものは、商工省の認可を経てから組合員であるかないかを問わず対露輸出組合事業規定の適用をうけることとなった³⁹。その規制内容は、支払い期限の 6 カ月を守ること、通商代表部の一定の指値以外には応じないこと、輸出にあたって品質検査を受けること等である。この規制措置は重要な輸出品であったマニラ・ロープおよびトワインにも適用されることになり、1935 年に施行規定が実施された。このような行政指導による規制は、ソ連側の自由な価格交渉の余地を奪うこととなり、輸出の機会を縮小させることに繋がったのである。

4. 対露主要輸入品動向

1) 石油

ロシアからの石油（灯油）輸入が 1913 年に絶えて、1926 年まで輸入されることはなかった。その後 1927 年から輸入が再開され、1930 年代初めに急増することとなった。1932 年 9 月、松方幸次郎は「ソユーズネフチエクスポート」との間にソ連産ガソリン輸入の契

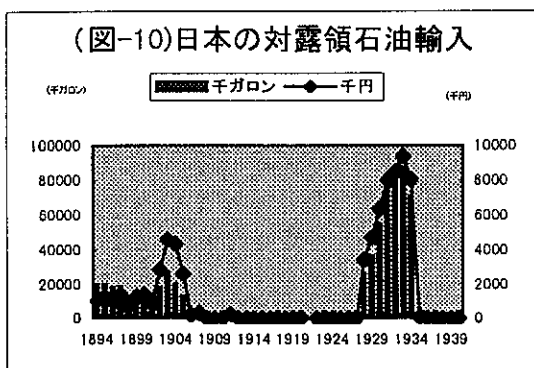
³⁷ 10) - 8 頁

³⁸ 2) - 昭和 9～10 年版、150～151 頁

³⁹ 対露輸出組合は「輸出組合法」（大正 14 年制定）によって大正 15 年に設立された。ソ連の貿易が国家貿易であるためにこれに対応する組織が必要であるという認識に基づいている。3) - 1938 年版、1046～1047 頁。

約に調印した。契約に先駆けて松方は駐日ソ連通商代表部と数十回におよぶ折衝を重ね、日本市場の状況に対するソ連側の理解を取り付けて、1932年8月27日、故後藤新平秘書の森孝三を伴って敦賀出帆の「天草丸」でウラジオストクに赴き、モスクワに乗り込んだのであった。この、日ソ貿易史上画期的な出来事は当時、日本国内の石油市場を支配するロイヤル・ダッチ、スタンダード、ライジングサン等の石油商社や石油業者間にセンセーションを巻き起こした。それまで、石油価格は商工省の主要産業統制法によって国内6社によって支配されており、このソ連産ガソリンの輸入の話は、値上げの矢先の出来事であり自動車業界はこぞって歓迎したのである。このことは、全国各地からの自動車業者が、帰国の松方を敦賀埠頭で熱狂的に迎えたことから、いかに6社の脅威から逃れようとしたかがわかる。また、当時の国際環境を考えれば、日本が軍国主義の道を走り始めており、新規石油の供給参入は日本海軍に対して燃料供給の鍵を握っている米国のくびきから逃れることを意味しており、ウォール街の石油株が一時4ドル下がったといわれるほど衝撃的であり、石油を英米にのみ頼りにしていた日本に新たな道を開いたことで松方の功績は高く評価されたのである。

ソ連側は日本の石油市場の状況を考慮して松方と契約を結んだ。その内容は、①委託販売を原則とし、FOBを基礎にした販売手数料制にすること、②買い手の費用で順次数カ所に貯油所を建設すること、③ソ連はバクー、グロズヌイより精製油を供給すること、④輸送費、関税はソ連側の負担とすること、⑤契約期間は1933年よ



り5年間で、期限満了の際更新契約のこと、⑥この期間の最低契約数量は20万tとすること、等日本側への配慮がみられた⁴⁰。満鉄顧問に就任した松方は1935年10月に、松方日ソ石油販売事務所を改組し、新会社「日ソ石油株式会社」(資本金170万円)を設立した⁴¹。契約にしたがって松方が輸入した1933年から1935年間のガソリン輸入総量は2,680万ガロンであった。ソ連産ガソリンの輸入を何としてもくい止めたい国内石油業者は直系販売企業の動揺を抑えようと、松方が安値で販売するといっても統制法の適用を受ける、ソ連産ガソリンを契約したといっても本当に入ってくるのか疑わしい、などと必死に説明し、同時に北樺太石油のガソリン輸入も検討していることを明らかにし、従来の原油専門輸入の立場を変更せざるをえなくなった。松方が輸入するガソリンはボーメが高く、ピウイク自動車1ガロン当たり走行距離が18哩であるのに対し、ソ連産は23哩であり、急

⁴⁰ 2)-昭和9~10年版、130~133頁。

⁴¹ 3)-昭和13年版、1011頁。

坂でもノッキングしないことや寒気に対してもエンジンが掛かりやすいなどの利点がますます石油業界6社のいらだちをつのらせたのである。

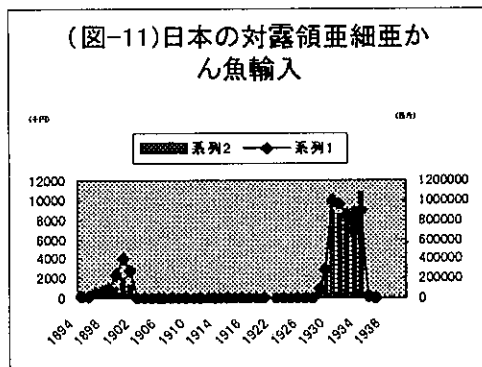
北樺太石油會社は1928年から1932年にかけて利権油田に隣接するソ連側の原油を約30万t購入しており、さらにバクー産の石油を購入する交渉を行った結果、独占販売権を獲得した。これによってガソリンは松方幸次郎、原油、重油その他一切は北樺太石油會社が取り扱うことになったのである。この他、松方と関係の深い共盛商會主堀清は専ら朝鮮中部地方を市場にベンジン、灯油を輸入する契約を1932年11月に駐日ソ連通商代表部との間に結んだ。この契約は翌1933年1月に朝鮮商事會社（代表岩本恆人）とソ連との独占販売契約成立で破棄されることとなった⁴²。

このようにソ連産石油の輸入契約が実現されるようになって将来の拡大に期待がもたれたが、日本を取り巻く国際環境は日毎に厳し、ソ連からの輸入どころではなくなったのである。

2) 水産物

露領漁業による漁獲物が『日本外国貿易年表』に計上されていれば、木材を上回る露領亜細亜からの最重要輸入商品になっているはずである。日ソ間で締結された漁業条約によって北洋に出漁して漁獲する以外に、日本はソ連極東漁業機関から魚を買い入れている。『日本外国貿易年表』によれば、塩鮭及塩鱒の露領亜細亜からの輸入額は1902年の140万円（輸入額の24%）から日露戦争期の1904～1905年の急減後、1906年には110万円（輸入額の80%）まで回復した。しかし、その後は皆無の状況が続いた。塩蔵魚（鹹魚）の輸入が復活したのは1928年のことであり、その後毎年増加の傾向にあり、1934年には1,080万円（同33%）を記録した。しかし、翌年には激減し、さらに1936年以降全く輸入されなくなったのである。このような輸入傾向をどのようにみたらよいのだろうか。

水産物の輸入は「日本外国貿易年表」の附属統計の「水産物細別表」に掲載されているが、この元になる表は税関の「出漁船捕獲採取品及其製品内訳譯表」である。この表は地域別に韓国、露領亜細亜、其他諸国に分かれており、露領亜細亜に限りカムチャッカ、ニコラエフスク、その他に細別することが義務づけられている。「水産物細別表」が「日本外国年表」に登場してくるのは1908年になってからのことである。露領亜細亜からの水産物の輸入は巨額にのぼって



おり、ロシア革命後の1918年から毎年増大し、ピーク時の1924年には2,670万円もの輸入額を記録したことがわかる。この額は同年の対露領亜細亜輸入額の1.8倍に匹敵する。その後、年によっては若干の落ち込みがあるものの、年間2,000万円の輸入額が1929年まで続いた。しかし、1930年以後はほとんど途絶状態になった。露領亜細亜からの水産物輸入の全盛時である1921年から1929年にかけて、特別輸入として扱われる日本の水産物輸入の毎年98~99%は露領亜細亜からの輸入であった。この数字からもいかに露領漁業による水産物が重要であるかがわかる。

露領漁業によって輸入された水産物の圧倒的な量は塩鮭及塩鱒であり、1908年から1920年までは毎年露領亜細亜からの水産物輸入額の80~90%を占めた。塩鮭及塩鱒の圧倒的な量はカムチャッカから輸入されている。1921年以降塩鮭及塩鱒のシェアは漸次低下し、1930年にはそのシェアは47%まで落ち込んだ。代わりに登場してきたのが鮭・鱒の缶詰や蟹缶であり、その他の魚缶詰であった。しかし、これら缶詰の輸入は1928~1929年の2年間しか目立った額が記載されていない。

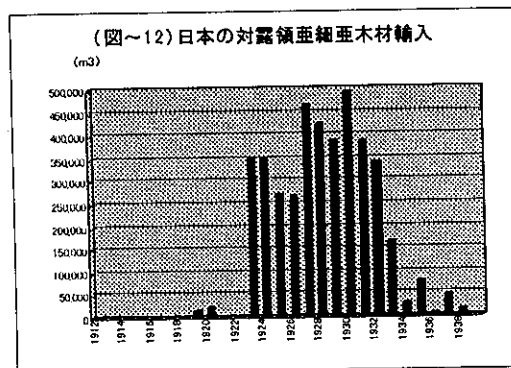
3) 木材

露領亜細亜からの木材輸入は日露貿易のなかで最重要商品であり、その重要性は現在においても変わらない。露領亜細亜からの木材輸入が統計にみられるようになった当初は、マッチの軸木として使用されるドロノキやハコヤナギが木材輸入の過半数を占めていた。露領亜細亜からの木材輸入はロシア革命後増え始め、1919年には180万円と露領亜細亜輸入額の43%を占めるほどになった。1923年9月の関東大震災によって露領亜細亜からの木材輸入量が急増し、1923年には1,180万円（対露領亜細亜輸入額の71%）、1924年には1,150万円（同76%）を記録した⁴⁸。なかでも、建築用のパイン、ファー及シダー（乙）の輸入量は1923年に35万m³、1924年には34万m³へと急増した。この勢いは1925~1926年も続いた。輸入数量と輸入金額から1924年には震災需要急増で木材価格が高騰したことが読みとれる。この時期の木材取引に本格的に参入した大手企業は神戸の鈴木商店であり、次いで日露木材、三菱商事が加わった。契約は基本的には委託販売契約であり、直接販売も例外的にみられた。日本において露領材として取り扱われていた樹種は、針葉樹では紅松、白松、落葉松であり、闊葉樹としてはやちたも、胡桃、白楊、わたどろ等である。建築材、造作材、函材として使用される紅松はウスリー鐵道沿線、日本海沿岸、アムール河流域および北樺太で伐採された。

⁴² 2) - 昭和9~10年版、132頁。

⁴³ 関東大震災によってロシアから木材および鉄・鋼材の輸出が急増した。1923~24年度のロシアから日本への輸出額は1,370万ルーブルであり、このうち丸太660万ルーブル（輸出額の48%）、製材40万ルーブル、鉄・鋼材120万ルーブル（9%）であった。17) - f.240, op.18c, ed.khr.740

1931年4月に木材の輸入関税が改正されて、丸太に対して課税されることになった。露領材は全部丸太であったために課税対象外であったが、これによって百石に対して90円が丸太材一様に課せられることになり、さらに翌1932年には30円増しの120円となったのである。露領材は米材に比べて用途も異なり、もともと安く、課税負担率が高くなり、税金が重くのしかかることとなった。例えば、米松丸太が1石当たり東京木場着価格5円50銭、税額70銭であるのに対し、露領材白松丸太は2円80銭、税額1円20銭、落葉松は3円、税額1円20銭と極めて不利になったのである。その結果、白松や落葉松はもはや採算にのらなくなり、その後しばらく市場から消えた。



おわりに

以上のように1900年から1940年にかけての日露貿易を概観してみると、暫定的な評価として今日的な両国関係にかなり類似していることが明確になる。

その第一は、日露貿易は政治的ファクターに大きく左右されるということである。もちろんいかなる国においても政治的要因を抜きにしては外国貿易を語れないだろう。ロシアにおいてはこの傾向がより鮮明にあらわれているのであり、とりわけ日露貿易には一段と強く作用しているように思える。このことは1984~1940年間の日本の外国貿易が1930年の大幅減少を例外として、着実に増大し続けているのに対し、同時期の日露貿易は政治的事件の影響を受けて激しく揺れ動いていることに典型的に現れている。日露戦争期には両国間貿易は大きく落ち込んだし、逆に第一次世界大戦期には特需があった。社会主義体制の出現は、貿易の国家独占によって外国の機械・設備、技術の輸入のために輸出を行うという基本原則が貫かれた。1935年からの満州国における北鐵譲渡によって日本の輸出に弾みがついた。しかし両国間には貿易を促進させるための通商条約がなく、締結の努力も第二次世界大戦で水泡に帰したのである。

第二は、日本にとってロシア貿易はごく一時期を除いて一貫して低い水準にあり、今日もこの傾向が続いていることである。日本の対露貿易依存度は総じて低く、輸出入とも0.5%から2%程度の範囲内にある。ロシアが日本と地理的に近く、広大な領土と豊かな自然資源を有する国家であることを考えれば、もう少し増えてもよさそうなものである。しかし、実際には海を隔てて日本に接するロシア極東の人口の希薄さ、伝統的な経済交流のパイプの細さ等制約要因があまりにも大きい。

第三は100年前に比べて、今日でも日露貿易の輸出入商品に基本的な構造変化が起

きていないことである。ロシアは長いこと原燃料の供給者であり続け、日本は加工品の輸出者であり続けた。かつて日本は石炭をロシアに輸出し、現在では逆にロシアから輸入しているといった違いはあるが、日本は今なお水産物、木材、非鉄金属、石油を輸入し、しかも相変わらず重要な輸入商品になっている。一方、輸出ではさすがに緑茶やたまねぎ、りんご、みかんの輸出はなくなったが、機械、鉄鋼等加工品は主力輸出品であり続けている。将来的には農産物の対ロ輸出は期待をもてる。ロシアの市場経済化が今後進めば、ロシア極東向けに北海道産のたまねぎやりんご、本州のみかん輸出の可能性は広がってこよう。

第四はロシアが市場経済の世界に仲間入りしても依然として貿易取引に古い体質が生き続けていることである。現在では、初期のソ連時代のように駐日ソ連代表部の貿易取引窓口としての力は失われたが、自由競争の時代に入ったにもかかわらず駐日ソ連通商代表部は依然として存在し、国家貿易の発想が強い。伝統的な商品の輸出に甘んじていて、日本市場での商品開発には疎い。

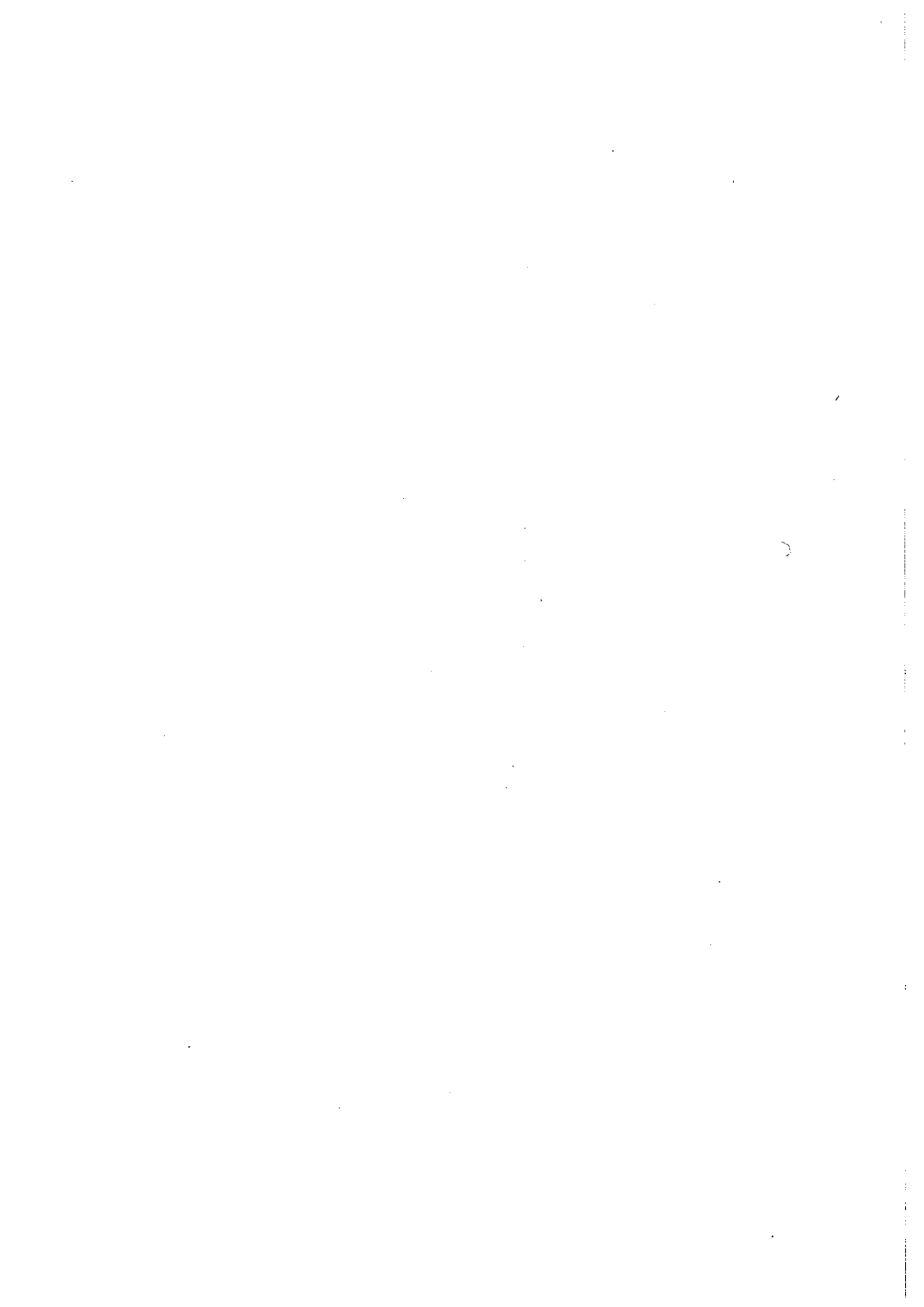
第四はソ連の条約交渉術が日露関係を通して、ある程度浮き彫りにされたことである。とくに、北鐵譲渡交渉ではソ連側は当初、過大に価格をつり上げ、交渉に臨んだ。しかし、交渉の過程で譲歩してきたが、それは基本的にはソ連にとって早く話をまとめた方が有利であったからであろう。また、通商条約締結交渉にあたってはドイツや他との協定をかなり参考に行っている。もちろん、どこの国でも行われていることであるが、ここで指摘したいのはソ連との交渉は過去の事例がずいぶん参考になるということである。ここに変わらないソ連の姿がある。

以上が 1984～1940 年間における日露貿易を統計的に分析した結果得られた暫定的な評価であるが、これをさらに実証するには第二次世界大戦後の日ソ・日露貿易を統計的に分析する必要がある。そこで問題になるのは戦後期においては露領亜細亜と露西亜との貿易区分が行われていないことであり、これを前半の部分とどのように整合性をもたせるかである。

(引用文献)

- 1) 大蔵省編纂『大日本外国貿易年表』明治 27 年 (1900 年) ～昭和 15 年 (1940 年) 各年版
- 2) 日露貿易通信社『日露年鑑』昭和 6 年～昭和 11 年版
- 3) 日露通信社『日露年鑑』昭和 13～19 年版
- 4) 原暉之「対岸航路と対岸貿易—日本海を挟む日露海運の歴史から」日本国際問題研究所『ロシア研究』No.25、1997 年
- 5) 外務省編『日「ソ」交渉史』巖南堂、昭和 17 年
- 6) 日露協会『日露貿易』大正 5 年
- 7) 日露協会『日露貿易調査事業経過報告』大正 8 年

- 8) 商工省貿易局『ソ聯邦ノ外国貿易ト日露貿易』昭和5年
- 9) 商務局貿易通報課『戦前戦後日露貿易』大正11年
- 10) 小樽露国領事館設置期成同盟會『小樽對露貿易調査書』大正12年
- 11) 桑原鍼晋「日露貿易の回顧と展望」『彦根高商論叢』第15號第35輯、昭和9年
- 12) 日露通信社『日ソ貿易要覽』1935年版
- 13) 鈴木旭「露領漁業と函館」函館市史編さん室『函館市史』通説編第3巻抜粋、平成9年
- 14) 函館市史編さん室『函館市史』通説編第2巻
- 15) 小樽市『小樽市史』第5巻、昭和42年
- 16) 敦賀市『敦賀市史』通史編下巻、1988年
- 17) 矢野太郎『日露貿易』関東都督府民生部庶務課、大正5年
- 18) 大阪市役所産業部『對露通商に関する考察』大正14年
- 19) Rossiiskii gosudarstvennyi arkhiv ekonomiki, fond
- 20) Dokumenty RGAE po teme "Prirodnye resursy I ekonomicheskoe razvitie Dal'nego Vostoka, o Sakhalina, Kamchatki 1917-1970-e gg." 1996 スラブ研究センター所蔵
- 21) 柴田銀次郎『外国貿易統計論』叢文閣、昭和13年
- 22) 大蔵省主税局『明治36年外国貿易概覽』1937年
- 23) 大蔵省主税局『明治38年外国貿易概覽』1939年



統計資料

(表～3) 日本とロシアの貿易推移(1894年～1940年)

(単位:千円)

		1894	1895	1896	1897	1898	1899
1	日本の貿易総額	228,780	262,778	286,290	378,689	440,299	491,692
2	日本の輸出総額	111,298	133,517	114,616	159,388	162,797	204,430
3	日本の輸入総額	117,482	129,261	171,674	219,301	277,502	287,262
4	対露領亜西亜貿易総額	2,158	2,619	3,100	3,721	3,876	7,090
5	対露領亜細亜輸出額	993	1,248	1,781	1,862	2,182	2,556
7	内訳、内国産	881	1,157	1,594	1,689	1809	2354
8	外国産	112	91	187	173	373	202
6	順位	12	12	10	12	11	11
9	対露領亜西亜輸入額	1,165	1,372	1,319	1,860	1,694	4,534
11	内訳、外国産	1,162	1,354	1,291	1,841	1,683	4,486
12	内国産	3	18	28	19	11	48
10	順位	11	11	13	13	14	11
16	対露領亜西亜貿易のシェア(%)	0.9%	1.0%	1.1%	1.0%	0.9%	1.4%
13	対露西亜貿易総額	36	121	228	226	577	665
14	対露西亜輸出額	28	75	130	178	461	616
15	対露西亜輸入額	8	46	98	48	116	49

	1900	1901	1902	1903	1904	1905	1906	1907	1908	1909
1	485,325	508,166	530,034	606,638	690,622	810,072	842,539	926,880	814,503	807,311
2	198,063	252,349	258,303	289,502	319,261	321,534	423,755	432,413	378,246	413,112
3	287,262	255,817	271,731	317,136	371,361	488,538	418,784	494,467	436,257	394,199
4	9,259	6,806	8,109	10,508	4,556	4,436	11,901	6,723	5,575	3,617
5	3,542	2,291	2,145	2,240	28	1,709	10,494	5,068	4,711	3,388
6	3,299	2,090	2,017	2,121	28	1,634	10,190	4,993	4,672	3,360
7	243	201	128	119	0	75	304	75	39	28
8	10	13	13	14	28	14	8	12	13	15
9	5,717	4,515	5,964	8,268	4,528	2,727	1,407	1,655	864	229
10	5,648	4,458	5,902	8,197	4,513	2,722	1,371	1,604	842	193
11	69	57	62	71	15	5	36	51	22	36
12	10	11	8	9	11	17	17	19	23	28
13	1.9%	1.3%	1.5%	1.7%	0.7%	0.5%	1.4%	0.7%	0.7%	0.4%
14	933	1,063	1,072	1,417	2,049	40	119	616	1,166	2,011
15	623	853	969	1,125	53	11	78	441	1,032	1,857
16	309	210	103	292	1,996	29	41	175	134	154

	1910	1911	1912	1913	1914	1915	1916	1917	1918	1919
1	922,663	961,240	1,145,974	1,361,892	1,186,837	1,240,757	1,883,896	2,638,816	3,630,245	4,272,331
2	458,429	447,434	526,982	632,460	591,101	708,307	1,127,468	1,603,005	1,962,101	2,098,872
3	464,234	513,806	618,992	729,432	595,736	532,450	756,428	1,035,811	1,668,144	2,173,459
4	3,266	3,580	4,211	5,021	11,439	81,863	119,467	77,989	44,401	75,882
5	2,503	3,071	3,542	4,271	10,413	78,299	117,693	74,234	40,034	70,958
6	2,430	3,040	3,523	4,264	10,096	77,892	115,317	73,314	39,765	69,780
7	73	31	19	7	317	407	2,376	920	269	1,178
8	18	17	16	17	10	3	3	6	11	6
9	763	509	669	750	1,026	3,564	1,774	3,755	4,367	4,924
10	757	504	657	729	968	3,390	1,742	3,644	2,482	3,692
11	6	5	12	21	58	174	32	111	1,885	1,232
12	23	25	24	24	19	16	20	19	18	20
13	0.4%	0.4%	0.4%	0.4%	1.0%	6.6%	6.3%	3.0%	1.2%	1.8%
14	2,019	3,130	2,614	4,938	2,008	11,846	34,525	14,824	848	853
15	1,811	2,596	2,541	4,897	1,968	11,239	33,421	13,515	162	464
16	208	534	73	41	40	607	1,104	1,309	686	369

	1920	1921	1922	1923	1924	1925	1926	1927	1928	1929
1	4,284,568	2,866,991	3,527,759	3,429,980	4,260,436	4,878,246	4,422,211	4,171,470	4,168,269	4,364,856
2	1,948,394	1,252,837	1,637,451	1,447,750	1,807,034	2,305,589	2,044,727	1,992,317	1,971,955	2,148,618
3	2,336,174	1,614,154	1,890,308	1,982,230	2,453,402	2,572,657	2,377,484	2,179,153	2,196,314	2,216,238
4	26,693	20,616	28,942	21,092	18,746	17,790	29,182	32,302	33,211	37,907
5	22,862	13,741	10,934	4,523	3,562	3,112	5,299	7,776	11,197	15,033
6	22,109	3,360	2,881	5,125	7,481	10,910	14,743
7	753	202	231	174	295	287	290
8	14	12	13	17	24	26	22	20	16	14
9	3,831	6,863	17,995	16,552	15,184	14,678	23,883	24,526	22,014	22,874
10	2,196	15,033	14,422	23,781	24,473	21,902	22,735
11	1,635	151	256	102	53	112	139
12	23	20	12	14	19	17	14	14	12	13
13	0.6%	0.7%	0.8%	0.6%	0.4%	0.4%	0.7%	0.8%	0.8%	0.9%
14	595	437	878	261	481	819	797	2,475	3,338	5,383
15	209	...	1	528	4	869	1,197	2,303
16	386	437	877	261	481	291	793	1,606	2,141	3,080

	1930	1931	1932	1933	1934	1935	1936	1937	1938	1939	1940
1	3,015,922	2,382,653	2,841,452	3,778,264	4,454,525	4,971,309	5,456,656	6,958,595	5,353,117	6,493,992	7,108,573
2	1,469,852	1,146,981	1,409,991	1,861,045	2,171,924	2,499,073	2,692,975	3,175,418	2,689,677	3,576,352	3,655,849
3	1,546,070	1,235,672	1,431,461	1,917,219	2,282,601	2,472,236	2,763,681	3,783,177	2,663,440	2,917,640	3,452,724
4	64,205	45,821	44,143	43,132	44,118	29,582	29,799	27,752	5,093	444	3,922
5	26,973	14,941	13,065	12,090	11,366	26,181	22,992	23,851	4,714	299	3,753
6	26,194	14,723	12,890	11,907	11,296	26,082	22,988	23,831	4,689	298	3,749
7	779	218	175	183	70	99	4	20	25	1	4
8	11	14	16	22	25	18	18	19	42	100	...
9	37,232	30,880	31,078	31,042	32,752	3,401	6,807	3,901	379	145	169
10	35,729	29,739	29,945	29,788	31,791	3,396	6,802	3,894	368	145	55
11	1,503	1,141	1,133	1,254	961	5	5	7	11
12	10	10	11	11	12	39	33	44	73	77	...
13	2.1%	1.9%	1.6%	1.1%	1.0%	0.6%	0.5%	0.4%	0.1%	0.0%	0.1%
14	3,868	5,904	2,734	7,292	9,693	16,640	22,882	13,777	846	197	...
15	1,345	2,134	1,378	1,575	1,638	2,137	8,357	4,136	469	26	...
16	2,523	3,770	1,356	5,717	8,055	14,503	14,525	9,641	377	171	...

(注) 1921年(大正10年)~1923年(大正12年)の内国産、外国産の内訳は欠番のため不明。
(出所)大蔵省編纂『日本外国貿易年表』各年版から作成。

(表—4) 日本の対ロシア輸出商品構造(1894年~1940年)

対露領亜細亜輸出		1894	1895	1896	1897	1898	1899	1900	
1	オート	百斤	
		千円	
2	緑茶	百斤	15	16	0.5	8	2	4	4
		千円	0.2	0.3	0	0.1	0	0	0.3
3	紅茶	百斤	11	18	39	69	243	135	355
		千円	0.3	0.5	1.5	1.3	8.6	3.9	9.2
4	磚茶	百斤	988	953	2193	244	625	1422	4,789
		千円	3.7	3.3	9.2	1.6	2.9	9.4	43.3
5	米	百斤	62,024	62,861	117,962	50,934	38,052	111,664	95,327
		千円	251.7	247.0	501.6	258.3	243.9	503.9	502.8
6	食鹽	百斤	33,073	46,482	62,747	92,241	89,390	233,522	364,354
		千円	14.3	25.3	50.5	124.7	92.1	178.5	345.9
7	小麦粉	百斤	30,688	45,615	29,545	26,511	30,066	5,984	12,947
		千円	131.6	180.3	125	133.8	168.7	29.7	68.5
8	麦酒	打
		千円	2.7	2.4	3	1.9	2.4	4.1	7.2
9	林檎	百斤
		千円
10	玉葱	百斤
		千円
11	蜜柑	百斤	8,981	15,792	9,038
		千円	32.9	49.8	38.6
12	鐵製品	
		千円	28.3	28.5
13	綿ブランケット	百斤	2,980	2,724	2,324
		千円	140.5	131.3	120.8
14	綿フランネル	千碼	
		千円	2	13.4	9.3	22.6	32.7	63.7	86.1
15	セメント	百斤	4,874	12,233	6,992
		千円	8.1	17.3	9.8
16	石炭	噸	6,020	7,759	19,620	13,542	23,286	24,122	26,877
		千円	28.9	34	88.6	79.7	168.8	160.4	183.2
17	繩索、帆及葦	
		千円	2.8	48.6	77.4
18	漁網	百斤	
		千円	
19	玻璃製品 (ガラス及同製品)	
		千円	10	37.5	39.6	42.6	27.7	22.1	86.7
20	漆器	
		千円	11.8	17.4	10.6	12.8	8.3	9.3	27.9
21	磁器及陶器	
		千円	17.3	13.5	15.6	17.8	23.8	17	25.4
対露西亜輸出									
22	緑茶	百斤	...	0.4	
		千円	...	0	
23	竹材	斤	
		千円	0	...	0	0.1	0.5	2.5	2.2
24	生絲	百斤	14	52	105	175	397	303	498
		千円	10.5	44.7	70.2	135.9	339.1	317.9	429.3
25	羽二重	段	5	1,443
		千円	0.2	34.2
26	石炭	噸	500	
		千円	3	
27	漆器	
		千円	3.4	3.7	9.5	6.9	55.9	159.4	81.4
28	磁器及陶器	
		千円	4.1	7.6	9.1	6.8	22.4	19	17.5

	1901	1902	1903	1904	1905	1906	1907	1908	1909	1910
1	59,783.0	16,822.0	6,892.0	8,829.0
	165.6	48.5	17.7	22.6
2	5	19	17	...	1	147	75	34	12	2
	0.2	1.0	0.7	...	0.0	2.8	2.3	1.3	0.6	0.1
3	126	58	102	...	77	240	202	95	23	8
	4.3	2.5	4.3	...	5.5	11.6	7.5	4.1	0.9	0.3
4	8,453	12,741	58	...	668	12,309	2,114	2,486	2,756	113
	108.3	197.1	0.9	...	8.3	158.5	26.3	28.3	32.1	1.7
5	61,725	61,030	70,156	2,623	46,401	69,599	34,237	21,608	11,940	16,237
	338.5	328.6	449.8	17.6	306.0	472.9	253.9	155.2	75.6	90.6
6	226,598	343,446	343,904	844	1,839	166,400	45,365	84,398	116,346	48,820
	192.7	297.1	414.3	0.7	4.8	457.4	105.4	178.5	319.9	122.1
7	586	617	479	-	200	278	78	463	268	234
	3.3	3.4	2.9	-	0.8	1.9	0.6	3.1	2.1	1.3
8
	13.4	19.0	18.4	...	16.6	472.2	212.1	59.9	35.0	21.2
9	3,405	26,540	26,276	20,345	30,731	42,135
	29.5	236.6	256.5	202.7	258.0	323.4
10	...	8,577	11,544	...	8,805	32,339	50,834	53,195	66,980	64,918
	...	32.8	35.5	...	26.8	134.0	170.3	139.7	174.0	182.6
11	21,115	17,555	24,117	749	18,336	87,429	79,423	63,970	59,649	50,449
	73.0	61.7	86.6	2.1	70.6	413.2	392.8	332.3	322.9	298.8
12
	35.5	30.0	28.7	-	8.0	68.9	24.2	13.8	20.9	9.8
13	617	15	14	...	1,506	5,049	1,234	521	197	44
	28.7	0.7	0.8	...	87.1	311.6	59.3	26.4	11.0	2.3
14	332.0	726.0	234.0	437.0	93.0	18.0
	6.9	0.9	2.6	...	63.0	124.8	31.2	58.0	11.7	2.0
15	38,381	16,458	12,572	...	5	23,514	9,889	51	181	51
	54.5	23.8	18.3	...	0.0	37.3	19.5	0.1	0.2	0.0
16	41,234	31,527	22,014	125	5,012	22,064	38,258	24,826	25,524	33,655
	261.4	202.9	125.2	0.8	51.9	162.8	271.2	178.5	171.6	218.5
17
	73.5	76.3	97.9	...	0.0	3.3	2.2	5.6	4.9	34.6
18	15	27	1,332	571	871	534	1,436
	0.2	0.9	77.0	30.0	41.8	21.4	83.1
19
	118.8	37.8	32.0	0.6	131.1	685.9	95.0	109.3	44.0	17.6
20
	10.1	6.3	8.3	0.0	12.7	138.2	12.0	7.4	1.9	2.6
21
	10.3	5.4	5.7	...	23.3	347.1	53.8	22.5	8.0	2.5
22
	0.0
23	0
	4.1	5.8	4.5	3.4	2.4	2.8	7.1	10.1	12.6	9.3
24	822	878	964	21	...	16	295	1,050	1,988	1,972
	700.9	776.8	954.4	19.1	...	17.5	345.1	949.3	1,759.8	1,688.3
25	...	26斤	28斤	-	-	-	-	-	4斤	...
	...	0.2	0.4	-	-	-	-	-	0.0	...
26	3,100	6,550	7,350	-	-	2,850	3,466	-	-	250
	24.8	52.2	58.0	-	-	31.3	32.8	-	-	1.8
27
	74.7	69.4	16.2	8.5	3.0	3.3	8.9	5.4	10.0	5.2
28	-	-	-	-	-	-	-
	13.7	14.2	7.7	2.8	0.0	3.7	2.3	5.3	6.4	8.5

	1911	1912	1913	1914	1915	1916	1917	1918	1919	1920
1	7,952.0	22,847.0	3,967.0	5,288.0	273.0	...	1,012.0	...	100.0	6,216.0
	20.7	78.2	10.0	11.3	0.6	...	6.0	...	1.0	31.0
2	40	13	15	26	54	36	1	1,559	1,476	99
	1.7	0.6	1.0	1.2	2.4	1.7	0.0	39.1	95.0	7.0
3	1	...	14	...	60	762	68	16	21	29
	0.0	...	0.7	...	2.4	36.8	3.3	2.0	2.0	3.0
4	174	623	17	644	22	286	1,898	2,289	2,579	16
	1.2	8.9	0.3	11.2	1.0	16.7	112.5	127.0	148.0	1.0
5	11,461	12,247	5,842	4,733	8,788	132,051	70,310	7,124	9,099	14,438
	75.7	92.8	49.8	32.2	47.8	837.3	504.7	92.4	165.0	281.0
6	95,892	102,961	130,519	121,079	246,056	274,777	211,247	168,974	214,118	44,578
	242.8	236.8	184.3	264.7	442.0	527.2	475.9	540.8	678.0	176.0
7	222	1	736	1	0	1,561	...	5,232
	1.3	0.0	5.0	0.0	0.0	21.2	...	65.0
8
	23.6	23.1	25.1	8.7	0.3	0.0	0.1	29.6	163.0	331.0
9	60,104	61,460	68,465	84,421	63,398	35,492	13,907	34,915	19,034	19,575
	419.3	445.8	496.1	522.3	386.4	247.3	124.6	483.9	315.0	341.0
10	75,508	75,855	81,316	77,461	74,753	57,198	46,767	51,856	44,377	29,840
	203.6	249.0	255.3	212.3	217.8	177.2	148.2	227.3	264.0	224.0
11	49,984	84,052	104,681	85,860	66,095	39,071	23,605	53,985	43,428	42,253
	283.2	428.2	505.1	381.1	304.3	218.3	146.9	548.0	426.0	463.0
12
	19.6	40.3	33.7	72.8	619.1	798.7	1,748.2	754.5	709.0	583.0
13	74	63	38	58	18	48	104	773	1,024	349
	8.9	3.6	2.4	3.3	0.9	2.4	5.0	98.4	187.0	56.0
14	7.0	9.0	7.0	3.0	1,270.0	181.0	2,270.0	4,067.0	5,969.0	30.0
	0.8	1.2	0.7	0.5	177.7	25.7	318.5	1,253.2	1,963.0	15.0
15	53	62	214	5,277	102,508	3,000	16,007	...	5,379	2,896
	0.1	0.1	0.3	7.1	126.0	4.0	27.5	...	14.0	11.0
16	72,957	64,052	61,618	69,653	95,624	52,238	35,983	26,534	142,389	58,379
	488.2	422.2	421.8	492.7	631.1	355.4	337.7	469.5	2,869.0	1,311.0
17
	16.9	14.4	16.6	16.5	13.3	5.7	3.7	27.8	46.0	53.0
18	649	1,364	2,187	1,760	1,096	5,134	2,179	2,411	4,083	3,671
	36.6	80.6	112.3	119.6	75.4	417.7	177.0	195.9	521.0	665.0
19
	16.9	10.8	9.7	12.2	47.5	66.7	37.9	125.2	430.0	107.0
20
	3.5	6.2	6.9	6.1	12.8	7.0	1.4	1.4	7.0	8.0
21
	6.0	6.0	10.4	13.6	24.2	78.9	11.3	95.0	245.0	71.0
22

23	-	-	-	-
	9.5	15.7	16.9	12.7	-	-	-	-
24	2,831	2,750	4,706	1,512	3,976	7,434	3,625
	2,454.6	2,390.4	4,415.2	1,458.9	3,171.8	8,891.7	4,560.7
25	12斤	11斤	-
	0.2	0.1	-
26	1,800	4,000	8,060	1,200	-	-	-	-
	14.4	32.0	57.9	8.4	-	-	-	-
27	-	-	-	-	-
	4.3	5.7	4.5	3.5	-	-	-	-
28	-	-
	4.1	4.2	7.3	3.2	0.8	-

	1921	1922	1923	1924	1925	1926	1927	1928	1929	1930
1
2	...	75	34	25	2,257	3,028	14	12	26	64
	...	10.0	5.0	3.0	277.0	304.0	1.0	1.0	2.0	5.0
3
4	...	31	...	181	1,147
	...	1.0	...	4.0	22.0
5	...	50,729	32,026	11,618	20	3716注	6151注	18,009	11,154	64,272
	...	803.0	468.0	202.0	0.0	61.0	103.0	231.0	154.0	741.0
6	...	76,567	1,176	13,790	929	716	545	404	66	566
	...	279.0	3.0	51.0	2.0	2.0	2.0	1.0	0.0	2.0
7	...	9,231	10,480	30,155	10,102	4,413	7,250	23,647	153,068	229,625
	...	86.0	101.0	342.0	139.0	45.0	85.0	236.0	1,255.0	1,565.0
8
	...	299.0	114.0	91.0	3.0	0.0	1.0	0.0
9	...	8,180	2,698	1,331	2,366	777	469	1,417	521	675
	...	134.0	31.0	16.0	33.0	8.0	6.0	17.0	6.0	5.0
10	...	23,118	4,222	3,359	7,195	4,608	5,820	4,219	4,506	7,254
	...	165.0	20.0	26.0	34.0	20.0	27.0	24.0	28.0	33.0
11	...	9,856	2,859	1,753	2,313	2,015	1,241	1,271	101	47
	...	90.0	25.0	20.0	21.0	18.0	12.0	12.0	1.0	0.0
12
	...	278.0	94.0	89.0	41.0	311.0	296.0	874.0	1,832.0	4,209.0
13	...	127	77	31	13	62	28	92	8	68
	...	15.0	9.0	4.0	1.0	7.0	2.0	11.0	0.0	7.0
14	...	240.0	37.0	66.0	3.0	1.0	1.0
	...	65.0	10.0	20.0	1.0	11注	14注	...	0.0	0.0
15	...	23,469	3,972	3,300	7,870	2,102	25,818	12,479	15,928	29,889
	...	59.0	12.0	9.0	15.0	4.0	45.0	23.0	24.0	45.0
16	...	18,282	1,973	2,902	1,935	165	101	383	5,445	20,671
	...	322.0	31.0	41.0	20.0	2.0	1.0	5.0	62.0	339.0
17
	...	62.0	15.0	23.0	1.0	34.0	115.0	132.0	236.0	641.0
18	...	3,324	890	409	485	1,439	3,503	9,869	23,520	58,297
	...	415.0	98.0	50.0	66.0	182.0	475.0	1,417.0	2,821.0	5,726.0
19
	...	77.0	8.0	6.0	1.0	4.0	16.0	13.0	12.0	91.0
20
	...	-	-	-	-	1.0
21
	...	68.0	25.0	9.0	6.0	15.0	24.0	25.0	32.0	54.0
22	7,607	10,825	25,042	15,574
	628.0	804.0	2,017.0	916.0
23	-	-	-	-	-	-	-	100
	-	-	-	-	-	-	-	0.0
24

25	-	-	-	-	-	-	-	-
	-	-	-	-	-	-	-	-
26	-	-	-	-	-	-	-	-
	-	-	-	-	-	-	-	-
27	-	-	-	-	-
	-	-	-	1.0	-	-
28	-	-	-	-	-	-
	-	-	-	-	-	-	1.0	2.0

	1931	1932	1933	1934	1935	1936	1937	1938	1939	1940
1
2	40	12	1,811	47	94,373	46,814	45,083	32,472	-	...
	3.0	1.0	53.3	4.2	2,981.1	1,950.6	2,651.7	1,533.5	-	...
3	5	5	6
	0.7	0.9	1.0
4

5	49,645	48,694	44,079	49,052	40,686	23	31	-	-	-
	381.0	456.0	412.3	483.6	525.3	0.4	0.5	-	-	-
6	7,571	53	14,405	6,708	168	-
	18.0	0.0	45.4	15.2	0.8	-
7	19,390	20,591	24,071	31,081	199,093	61,556	33	11	-	...
	67.0	124.0	161.1	188.8	1,383.3	506.1	0.4	0.1	-	...
8
	0.0	1.0	1.4	1.5	1.3	0.0	0.0	0.0
9	546	667	962	934	7,798	4,104	1
	4.0	5.0	5.9	7.9	51.6	42.6	0.0
10	6,976	11,420	10,894	12,104	60,447	2,924	692
	22.0	47.0	41.0	34.7	199.0	15.0	1.8
11	34	66	224	57	4,331	2	4	-	1	...
	0.0	0.0	2.3	0.5	23.0	0.0	0.0	-	0.0	...
12
	2,389.0	1,410.0
13	30	176	3	182	213
	2.0	15.0	0.2	25.7	40.3
14	3.0	4.0	366注	510注	980注
	0.0	0.0	0.1	0.1	0.9
15	14,611	29,742	16,338	24,001	3,095,471	1,971,573	3,209,592	-
	20.0	42.0	21.7	30.2	1,839.9	1,253.9	2,133.3	-
16	16,246	22,557	29,563	43,767	12,613	-
	243.0	284.0	354.9	576.6	186.3	-
17
	274.0	263.0	197.0	157.1	168.9	-
18	44,129	30,514	28,230	29,045	33,194
	3,001.0	1,586.0	1,905.0	1,546.3	2,074.2
19
	31.0	29.0	33.4	34.6	34.3	0.4	-	-
20
	0.6	0.6	0.6	-
21
	16.0	18.0	19.0	14.9	11.7	0.5	-	0.6	-	...
22	36,168	43,622	50,088	57,923	4,750	-	37,690
	1,868.0	1,331.0	1,549.7	1,627.0	129.8	-	1,867.9
23	-	-	-	1,400
	-	-	-	0.2
24

25	-	-
	-	-
26	-	-
	-	-
27	-	-	-
	-	-	-	0.5	0.0
28	-	-	0.1	23打	-	700斤
	-	-	0.0	0.6	0.1	...	-	0.6

(注)貿易統計上一印のものはこの表でも一印で表し、...印は不明を表す。

1921年は欠番のため不明。

(出所)表-3に同じ。

(表~5) 日本の対ロシア輸入商品構造(1894年~1940年)

対露領亞細亞輸入		1894	1895	1896	1897	1898	1899
1 小麦	百斤	3
	千円	0
2 大豆	百斤
	千円
3 乾魚	百斤	401
	千円	1.7
4 鹹魚	百斤	22,594	26,169	46,366	82,533	86,460	233,282
	千円	61.8	105.3	221.4	448.6	475.5	1186.7
5 鹽鮭及鱒	百斤
	千円
6 石油	千ガロン	19,690	20,058	18,437	18,723	12,581	10626
	千円	1,056	1,218	1,013.1	1,336.4	682.3	1,276.3
7 石炭	噸	...	3
	千円	...	0
8 木材 ¹⁾ (ドノキ及ハコヤナギを除く)	立方米
	千円	0.2	0.2	0.3	0.1
9 木材 (ドノキ及ハコヤナギ)	百斤
	千円
10 サントニン	千ガロン
	千円
11 獸骨肥料用	百斤	11360	3017
	千円	16.5	4.7
12 豆糟	百斤
	千円
13 魚糟	百斤
	千円
対露西亞輸入							
14 紙巻煙草製造機	
	千円
15 精糖(乙) ²⁾	擔	31	197	509	315	636	9
	千円	0.5	2.4	5.9	4.1	8.3	0.1
16 水銀	斤
	千円
17 原油	瓦
	千円
18 サントニン	ガロン
	千円
19 更紗	方碼 ³⁾	5,624	9,905	19,760	27,777	215,223	99,581
	千円	0.7	1.3	2.5	4	29.7	24.9
20 板紙	斤
	千円
21 汽船	隻	1			
	千円	65			
22 豆糟	擔
	千円

	1900	1901	1902	1903	1904	1905	1906	1907	1908	1909
1	0	423	28,311	7,177	-
	0	1.7	94.1	30	-
2	3,306	771	545	1,289	1,333	...	351	96,605	12,003	407
	8.6	2.3	1.5	3.2	3.5	...	1.1	347.3	45	1.6
3	532	543
	2.6	2.6
4	401,781	272,165	999
	1,945.3	1,224	3.7
5	318,520	305,424	13,864	9,000	210,720	1,303	27	5
	1,433.6	1,419.3	98.7	56.8	1,118.5	5.1	0.1	0
6	13,904	10,247	17,899	27,269	19,987	13,003	1,184	1,581
	2,412	1,932.3	2,839.6	4,630.2	4,385	2,620	190	298
7	10
	0
8

9

10

11	3,552	5,825	4,721	4,359	573	188	3,476	17,047	7,001	8,956
	7.7	11.9	9.5	8.6	1.1	0.5	10	44.4	16.7	21.4
12	46	1	168,247	167,071	10,245
	0.1	0	469.6	463.5	20.3
13	269,098	280,632	344,976	495,330	1,391	7,461	715	479	2,745	457
	1,146.1	1,171.6	1,448.8	1,996.1	7	33.7	2.4	3.1	10.1	1.1
14	...	-	-	-	-	-	-	-
	7.9	-	1.9	-	-	-	-	-
15	2,333	17,270	229	25,377	310,165	2,540	3	166	40	-
	18	127.2	1.8	159.3	1,983.6	16.4	0	1.8	0.3	-
16	-	-	9,410	23,836	-	-	-	-
	-	-	14.3	35.5	-	-	-	-
17

18

19	40,455	129,875	45,755	78,848	5,429	-	10,957	98,580	173,388	18,738
	9.8	36.3	12.7	22.4	1.5	-	3.6	24.5	41.1	4.3
20	50,000	41,667	130,626	154,333	112,500	49,999	227,975	274,166	850,667	1,289,128
	2.5	2.5	6.7	7.1	5.1	2.5	10.8	13.4	46.5	69.6
21	1	-	1	1	-	-	-	-
	259	-	40	50	-	-	-	-
22	17,239
	43.1

	1910	1911	1912	1913	1914	1915	1916	1917	1918	1919
1	15,847	8,006	969	...	17,858
	64.9	32	4.5	...	160
2	9,459	...	97,908	79,922	71,753	144,896	92,984	91,103	61,132	4,215
	34.1	...	387.2	326.4	291	517.2	328.8	434.3	407.4	39
3

4	6	6
	0	0
5	77
	0.2
6	...	3,735	164	32	...
	1	224	10	26	5
7	4,552	4,962
	107	84
8	51	43	4	13	1	111	1,044	12,334
	0	0	0	0	0	3	17	290
9	19,322	969	79,422	640,829
	30	0	289	1,802
10

11	10,215	8,748	8,381	9,201	11,859	7,484	6,781	2,801	1,370	2,036
	23.3	20.6	19.9	25.2	31.6	17.3	16.2	9	4.3	8
12	3,422	282	3,762	21,843	77,576	614,125	239,089	481,627	83,523	4,635
	10.6	0.8	11.9	72	228.8	1,691	658.9	1,574.9	396.9	25
13	...	2,007	6,452	8,612	5,458	4,435	1,502
	...	8.6	27.8	43.1	24.3	20	6.6
14

15	1	...	194	-	-	-	-	-
	0	...	0	...	1.2	-	-	-	-	-
16	-	-	-	-	-
	-	-	-	-	-
17	61.2	4,105,752
	15.9	285,698
18	2688 _A	1626 _A
	206	168
19	151	14,902	11,552	12,402	9,889	16,667	9,451	-	-	-
	0.1	4.3	3.2	3.4	3.1	5	3	-	-	-
20	1,632,150	976,207	16,667	3,333
	86.9	49.7	0.8	0.2
21	...	2	1	1	1
	...	98.7	0.5	5	40
22	-
	-

	1920	1921	1922	1923	1924	1925	1926	1927	1928	1929
1	434	...	268	...	2,043	10,558	...
	2	...	2	...	14	88	...
2	410,982	43,015	450,967	1,676,527	987,517	273	...
	2,054	285	2,692	11,396	6,699	1	...
3

4	99,288	303,804
	1,218	3,251
5

6	119	25,824	36,321
	11	3,426	4,753
7	37,282	81,763	4,950	59,941	40,689	97,068	116,291
	520	1,217	90	822	538	1,391	1,646
8	21,807	349,597	349,529	269,702	264,683	464,600	423,646	387,051
	369	9,618	9,286	7,191	7,058	12,555	10,425	8,423
9	266,849	535,982	542,912	801,641	690,403	691,042	797,476	664,533
	1,078	2,109	2,186	2,386	2,290	2,273	2,306	1,697
10

11	239	1,857	668	31,351	21,914
	1	5	1	131	81
12	2,217	...	34,531	50,548	104,277	157,119	195,364	400,720	14,903	17,547
	14	...	175	243	507	853	1,003	1,716	68	82
13

14	-	-	-
	-	-	-
15	-	-	-	-
	-	-	-	-
16	-	-	-	-
	-	-	-	-
17

18	165 ⁴⁾	82 ⁴⁾
	48	36
19	-	-	-	-
	-	-	-	-
20	-	-	-	-
	-	-	-	-
21	-	-	-	-
	-	-	-	-
22	-	2,990	62,947
	-	167	356

	1930	1931	1932	1933	1934	1935	1936	1937	1938	1939	1940
1	144	-
	0.8	-
2

3

4	1,001,688	952,736	848,819	681,269	877,823	16,171	-
	8,856	8,551	8,450	9,269	10,783.5	247.4	-
5

6	55,391	79,090	87,699	87,309	71,030	612
	6,371	8,033	8,488	9,412	8,079	68
7	109,645	116,692	113,536	171,971	198,368	45,632	5,708	3,346
	1,509	1,246	1,144	1,939	2,670	618	87	60
8	489,838	385,332	341,383	165,943	29,251	76,670	7,171	44,118	13,638	199	...
	7,707	4,777	3,522	2,514	619	1,410	107	1,005	297	4	...
9	450,518	188,101	...	37,443
	1,279	414	...	78
10	375	1,000	1,397	250	-	105
	129.4	200	251.5	50	-	56.3
11	28,399	15,564	574	2
	82	35	3	0
12	3,680	-	460	1,064	1,350	-	15,323
	12	-	1	4	4	-	75.6
13

14

15	...	3
	...	0
16

17	200,000
	20
18	1,120,000	1,050,000	1,400,000	939,998	791,000	1,950,120
	306	362	202	175	171	1,013.5
19

20

21

22

(注)・1)1894年～1899年の「木材」は「木材及板類」。

・2)1894年～1898年の「精糖」は「精製砂糖」。

・3)1894年～1899年の単位は碼。

・4)単位は斤。

(出所)表—3に同じ。

(表～6)第一次世界大戦期の日本の対露領亞細亞主要品輸出

		1913	1914	1915	1916	1917	1918
革	千斤	1.3	3	10.6	184.3	486.9	...
	千円	1.8	5.1	19.4	381	1109.4	...
薬材化学薬及製薬	
	千円	57.4	1115.7	2260.5	10863.1	3038.9	...
燐寸、安全製	哥	17859	4583	8924	1871128	2211811	...
	千円	5.4	1.5	3.4	1127	1317.7	...
他の染料、顔料	
	千円	7	30	782	6227	919	...
羅紗及セルヂス	千碼	...	243.1	6621.8	1950	671.3	...
	千円	...	446.3	16118.1	5064.5	1808	...
肌衣、綿メリヤス製	千打	2.3	4.6	17.6	239.8	5.6	...
	千円	6.2	37.2	111.6	2627	50.5	...
靴	足	198	617	1261597	442294	422399	...
	千円	0.2	0.6	8480.5	2672.4	2552	...
鐵及び鐵製品		1410.2	1410.2	1410.2	1410.2	1410.2	...
	千円	43.2	80	678.7	873.9	4960.1	1410.2
銅、塊及錠	千斤	...	8570.5	50016.8	59682.2	18232.8	...
	千円						
亞鉛(塊及錠)	千斤	20210.5	12278.1	...
	千円						
安知母尼	千斤	...	1833.9	8038.1	5791.4	518.2	...
	千円						
眞鍮及黄銅、板	千斤	...	3.8	1692.8	7523.3	17094.4	...
	千円						
その他の金属	
	千円	0.4	5.5	2720	3373	755	...

(出所)『日本外国貿易年表』1913～1918年版から作成

(表7)露領亜細亞からの水産物輸入(1900~1935年)

		1908		1909		1910	
		数量:擔	金額	数量:擔	金額	数量:擔	金額
1	生魚	露領亜細亞	...	91,680	11,311	61,898	...
		堪察加	303	5,600
		尼古來斯克	49	345
		沿海州
		其他	5,365	33,961
2	鯨肉	露領亜細亞	95	557	21
		堪察加	21
		尼古來斯克
		沿海州
		其他
3	鱈鮭及鱈鱈	露領亜細亞	709,762	3,763,460	982,767	4,759,613	1,074,121
		堪察加	532,094
		尼古來斯克	429,949
		沿海州
		其他	112,077
4	鱈魚	露領亜細亞	20,484	54,468	6,723	20,353	23,861
		堪察加	36
		尼古來斯克	1
		沿海州
		其他	23,824
5	乾魚及煎魚	露領亜細亞	—	—	250	1,604	323
		堪察加	58
		尼古來斯克	0
		沿海州
		其他	265
6	海參	露領亜細亞
		堪察加
		尼古來斯克
		沿海州
		其他
7	鱈魚卵	露領亜細亞	4,410	33,913	6,044	45,169	8,826
		堪察加	8,138
		尼古來斯克	385
		沿海州
		其他	303
8	蟹鱈詰	露領亜細亞
		堪察加
		尼古來斯克
		沿海州
		其他
9	其他/鱈詰	露領亜細亞
		堪察加
		尼古來斯克
		沿海州
		其他
10	筋子	露領亜細亞
		堪察加
		尼古來斯克
		沿海州
		其他
11	其他/食物	露領亜細亞	...	9,218	...	30,202	0
		堪察加	40,706
		尼古來斯克	62,480
		沿海州
		其他	662
12	肥料	露領亜細亞	—	—	...	104,288	...
		堪察加	2,048
		尼古來斯克	10,761
		沿海州
		其他	191,951
13	其他/雜品	露領亜細亞	...	50,953	...	5,961	...
		堪察加	558
		尼古來斯克	411
		沿海州
		其他	1,472
14	露領亜細亞合計		4,004,249		5,029,088		10,527,018

	1911		1912		1913		1914		1915	
	数量:擔	金額	数量:擔	金額	数量:擔	金額	数量:擔	金額	数量:擔	金額
1
	374	2,698	210	2,002	46	304	961	4,443
	1,461	11,756	438	3,581	17	100	585	2,000

	1,584	9,014	758	4,436	232	1,676	671	2,500	6,705	18,721
2	23	90	19	148
	23	90

	19	148
3	1,515,640	5,969,376	916,088	4,499,618	1,046,339	5,251,277
	985,420	3,791,324	639,882	3,109,996	860,682	4,224,780
	401,564	1,610,776	158,020	726,852	39,352	220,084

	128,657	567,276	118,187	662,770	146,304	806,413
4	33,317	114,856	13,547	38,574	109,185	844,035	8,171	24,185	4,502	14,637
	50	179	567	1,775	2,346	9,879	1,378	6,237	717	2,819

	33,267	114,677	12,980	36,799	106,839	834,156	6,793	17,948	3,784	11,818
5	648	3,231	177	1,384	172	1,327	279	1,765	180	1,299
	565	2,429	56	353	28	138	106	427	11	55
	37	307

	47	495	121	1,031	144	1,189	173	1,338	169	1,244
6

7	12,221	76,716	7,414	56,142	7,145	51,579	10,145	83,742	20,759	156,797
	11,639	73,047	6,769	50,492	6,537	46,825	9,749	79,609	18,166	140,401
	116	758	15	101	15	97	9	67	25	251

	466	2,911	630	5,549	593	4,657	387	4,066	2,568	16,145
8

9

10

11	...	234,873	...	575,119	...	361,394	...	682,799	...	735,619
	...	172,740	...	499,224	...	284,348	...	674,138	...	731,368
	...	60,988	...	73,949	...	46,731	...	6,008

	...	1,145	...	1,946	...	30,315	...	2,653	...	4,251
12	...	302,768	...	351,535	...	177,542	...	234,017	...	153,471
	...	7,516	...	19,528	...	16,724	...	20,071	...	19,472
	...	28,597	...	34,399	...	4,692	...	128

	...	266,655	...	297,608	...	156,126	...	213,818	...	133,999
13	...	9,614	...	691	...	789	...	685	...	840
	...	151	...	578	...	190	...	436	...	368
	...	343	...	40	...	24	...	6	...	25

	...	9,120	...	73	...	575	...	243	...	447
14	...	13,446,516	...	11,056,441	...	13,377,662	...	2,059,190	...	2,148,490

	1921		1922		1923		1924		1925	
	数量:擔	金額	数量:擔	金額	数量:擔	金額	数量:擔	金額	数量:擔	金額
1
	7,655	25,820					7,032	98,998	4,559	100,985
	25,412	542,754					74,925	1,087,033	10,176	136,478

	7,307	111,422					174,907	2,152,300	206,027	2,384,440
2

3

4	62,742	358,223	73,143	570,136	62,414	424,453
	2,697	24,650	1,359	8,959	2,324	32,239
	7

	60,045	333,573	71,784	561,177	60,090	392,207
5	1,197	20,461	3,569	49,098	7	60
	122	1,718	3	40
	14	206

	1,061	18,537	3,566	49,058	7	60
6
	-	-	-	-	-	-
	-	-	-	-	-	-

	-	-	-	-	-	-
7	61,921	1,318,682	0	0	0	0	58,616	1,437,272	37,373	1,293,625
	47,231	987,194	50,502	1,156,970	20,579	730,793
	2,542	61,230	552	26,836	31	1,278

	12,148	270,258	7,562	253,466	16,763	561,554
8

9

10

11	...	6,943,931	4,975,376	0	5,039,529
	...	5,833,849	3,856,938	...	4,241,801
	...	36,108	24

	...	1,073,974	1,118,438	...	797,704
12	...	309,399	0	0	0	296,571	0	341,481
	...	120,524	79,547	...	207,383

	...	188,875	217,024	...	134,098
13	...	3,259	9,680	0	36,583
	...	630	5,122	...	33,756
	...	65

	...	2,564	4,558	...	2,827
14	...	18,587,906	18,014,597	...	16,893,365

	1926		1927		1928		1929		1930	
	数量:擔	金額	数量:擔	金額	数量:擔	金額	数量:擔	金額	数量:擔	金額
1
	1,269	22,197	50,980	1,109,387	34,948	540,675	28,720	453,642
	68,187	1,046,319	50,302	857,724

	87,694	1,060,931	177,426	1,008,853	26,825	443,388	18,838	220,875
2	67,562	437,991
	8	146

	67,554	437,845
3

4	90,084	615,109	72,329	537,616	25,995	248,577	11,536	381,684	6,888	53,628
	7,010	110,935	13,122	136,618	9,022	82,340	9,840	372,878	6,888	53,628

	83,074	504,174	59,207	400,998	16,973	166,237	1,696	8,806
5	810	25,350	312	12,333
	668	19,321	198	6,992	-	-	-	-	-	-

	142	6,029	114	5,341	-	-	-	-	-	-
6
	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

7	56,882	1,425,230	39,831	1,207,581	0	0	0	0	0	0
	50,666	1,317,896	36,967	1,134,310	-	-	-	-	-	-
	1	36	-	-	-	-	-	-

	6,215	107,298	2,864	73,271	-	-	-	-	-	-
8	61,442	3,864,381	48,944	3,630,291	1,065	90,880
	61,442	3,864,381	48,536	3,607,171	1,065	90,880

	408	23,120
9
	30,896	695,486	59,690	1,639,387

	1	50
10
	63,544	2,220,769	41,238	1,214,802	67	7,481

	3,986	106,861	5,381	163,619
11	0	275,056	0	13,347	0	114,456	0	11,733	0	58,978
	...	54,776	...	1,008	...	93,270	...	1,638
	...	22

	...	220,258	...	12,339	...	21,186	...	10,095	...	58,978
12	0	236,195	0	172,577	33,411	172,536	34,427	213,885	0	0
	...	129,758	...	118,974	25,923	115,493	27,430	153,598

	...	106,437	...	53,603	7,488	57,043	6,997	60,287
13	0	16,097	0	12,479	0	22,187	0	588,409	0	0
	...	15,969	...	7,396	...	14,734	...	584,007

	...	128	...	5,083	...	7,453	...	4,402
14	...	8,191,503	...	6,887,830	...	12,851,453	...	13,344,379	...	414,453

	1931		1932		1933		1934		1935	
	数量:擔	金額	数量:擔	金額	数量:擔	金額	数量:擔	金額	数量:擔	金額
...
1	1,945	44,462
...
...	12,594	177,764
...	1,267	5,134	2,123	24,222	1,094	17,500
2	1,938	18,606
...	1,938	18,606
...
...
3
...
...
...
4	4,817	32,776	8,452	52,120
...	4,817	32,776	8,452	52,120
...
...
5
...	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
...	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
...	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6
...	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
...	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
...	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
...	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
...	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
...	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
8
...
...
9
...
...
10	77	1,840
...
...
11	0	76,196	0	4,566	0	0	0	0	0	0
...
...
...	...	76,196	...	4,566
12	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
...
...
...
13	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
...
...
...
14	...	306,592	...	315,358	...	17,500	...	0	...	426

(出所)『日本貿易年表』特殊貿易「水産物表」各年版から作成

(表～8) 対露領亞細亞主要港湾別輸出額

(単位:千円)

	合計	横浜	神戸	大阪	函館	新潟	敦賀	小樽
1894	992.8	94	222.5	...	21.9(2.2)
1895	1247.5	118.1	386.1	...	22.8(1.8)
1896	1780.9	82.3	472.1	...	101.4(5.7)
1897	1861.7	89.2	579.3	5.0	193.5(10.4)
1898	2182	126.6	686.2	105.8	174.1(8.0)
1899	2556	123.3	571.9	275.3	594.9(23.3)
1900	3541.8	236.3	696.2	576.3	949.2(26.8)
1901	2290.4	132.4	233.9	245.2	685.6(29.9)
1902	2145	14.8	116.6	135.7	843.9(39.3)
1903	2240	78.2	168.8	115.1	1065.4(47.6)
1904	27.8	3.3	16.8
1905	1709.8	1.4	311.6	790	20.2(1.2)
1906	10494.1	238.9	1471.6	4607.5	880.1(8.4)
1907	5067.7	84.5	225.4	616.5	315(6.2)
1908	4710.9	53.1	75.4	30.8	131.3(2.8)
1909	3388.3	45	79.3	13.1	59.4(1.8)
1910	2503.5	21.7	81.1	0.5	152.8(6.1)
1911	3070.6	32.9	91.5	12.6	111(3.6)
1912	3542.2	42.5	104	4.2	165.1(4.7)
1913	4271.4	18.9	272.8	3.7	153.8(3.6)
1914	10413.1	1953.3	2035.1	308.1	487.1(4.7)	211	4258(40.9)	330.5(3.2)
1915	78299.2	17362.1	12539.6	10720.8	219.6(0.3)	218.2	34678.3(44.3)	344(0.4)
1916	117693.5	30534.1	25660.4	12539.1	635.1(0.5)	394.3	44786.7(38.1)	432.6(0.4)
1917	74234.1	16540.7	9517.9	4262.2	348.8(0.5)	420.9	40206(54.2)	280.2(0.4)
1918	40034.4	1317.9	2170.9	8522.6	255.4(0.6)	960.9	25085.9(62.7)	469.8(1.2)
1919	70958.3	11203.2	7741.4	5892	667.7(0.9)	1300.1	39519.2(55.7)	504.5(0.7)
1920	22862.6	1412.6	4890.9	1344.2	517.2(2.3)	638.9	9518.5(41.6)	1287.4(5.6)
1921	13741.3	440	355.6	2068.2	596.4(4.3)	575.5	3653.3(26.6)	3851.8(28.0)
1922
1923
1924	3562.9	7.8	70.5	994.2	947.8(26.6)	...	193.9(5.4)	1242.2(34.9)
1925	3112.7	47.8	287.6	682.6	395.9(12.7)	0.7	1266.3(40.7)	1992.2(64.0)
1926	5300	404.4	860.7	1508.5	1030.3(19.4)	14.9	1174.2(22.2)	79(1.5)
1927	7776.3	1355.3	546.8	1257.5	1465(18.8)	...	1569.5(20.2)	360.2(4.6)
1928	11197.5	2126	831.2	1011.6	3068.4(27.4)	...	2227.1(19.9)	95.5(0.9)
1929	15033.4	3466.6	833.5	348.4	6901(45.9)	...	2266.8(15.1)	124.3(0.8)
1930	26973.4	4784.7	1176.2	310	16787(62.2)	475.2	2363.1(8.8)	573.7(2.1)
1931	14941.5	2391.8	452.8	1061.4	6130.7(41.0)	351	2930.2(19.6)	1033.3(6.9)
1932	13065.5	3639.2	130.8	159.9	6133.1(46.9)	3.5	1230.1(9.4)	753.6(5.8)
1933	12090	2256.3	40	165.3	6465(53.5)	...	1402.2(11.6)	922.4(7.6)
1934	11366.7	2735.4	24.8	106.4	5699.8(50.1)	...	453.5(4.0)	1579.8(13.9)
1935	26181.3	4616.9	551.2	1543.5	5875.5(22.4)	...	6914.9(26.4)	426.6(1.6)
1936	23992.6	3855.3	514	3234.5	649.2(2.7)	9.5	8234(34.3)	13(0.1)
1937	23850.9	10521.3	428.9	3501.7	511.3(2.1)	809	2451.3(10.3)	0
1938
1939
1940

(注)カッコ内は輸出額に占めるシェア(%)。
(出所)表～3に同じ。

(表～9) 对露領亞細亞主要港湾別輸入額

(単位:千円)

	合計	横浜	神戸	大阪	函館	新潟	敦賀	小樽
1894	1165.3	627.1	378.4	...	50(4.3)
1895	1371.6	804.1	379.2	...	48.1(3.5)
1896	1318.9	674.3	294.0	...	153.7(11.7)
1897	1859.7	943.6	313.3	1.5	374.7(20.1)
1898	1694.2	786.1	280.1	0.1	429.4(25.3)
1899	4534.1	1830.9	618.8	2.9	1623.1(35.8)
1900	5,716.7	1,673.0	626.9	3.6	2,602.6(45.5)
1901	4,515.2	1,343.4	5.7	3.3	1,993.9(44.2)
1902	5,963.9	2,307.7	63.3	0.7	2,357.1(39.5)
1903	8,267.7	2,335.5	1,017.1	2.8	2,916.1(35.3)
1904	4,527.7	1,097.4	1,719.5	2.8	276.1(6.1)
1905	2,726.6	177.9	1,304.9	...	31.7(1.2)
1906	1,407.2	95.2	118.7	7.3	757.4(53.8)
1907	1,655.6	538.0	911.0	4.9	13.9(0.8)
1908	864.2	325.3	54.9	0.3	8.2(0.9)
1909	228.4	5.9	38.7	0.2	8.3(3.6)
1910	762.6	107.9	18.3	1.6	6.8(0.9)
1911	509.5	11.6	118.5	41.3	8.9(1.7)
1912	669.1	395.2	138.9	8.6	14.5(2.2)
1913	750.5	320.3	185	2.7	19.2(2.6)
1914	1,025.7	431.0	16.4	73.9	15.7(1.5)	1	83.6(8.2)	24.2(2.4)
1915	3,564.5	1,963.9	604.5	79.7	19.2(0.5)	0	145.1(4.1)	50.4(1.4)
1916	1,774.2	724.4	3.0	119.4	29.1(1.6)	1	44.3(2.5)	1.3(0.1)
1917	3,755.3	1,486.2	35.1	303.9	68.7(1.8)	121.3	97.1(2.6)	0.6(0)
1918	4,366.6	282.9	731.7	401.1	79(1.8)	301.2	1,450.2(33.2)	61.6(1.4)
1919	4,925.0	340.5	2,326.3	545.2	258.7(5.3)	214.1	718.9(14.6)	3.6(0.1)
1920	3,831.7	144.2	1,267.6	889.5	129.2(3.4)	261.6	846.9(22.1)	33.8(0.9)
1921	6,863.2	594.2	3,004.8	193.5	80.5(1.2)	619.4	406.8(5.9)	811.1(11.8)
1922
1923
1924	15,184.9	2,538.9	2,922.8	1,563.4	354.9(2.3)	455.5	325.1(2.1)	797.4(5.3)
1925	14,678.3	1,200.5	4,026.8	2,594.2	37.1(0.3)	660.9	206.5(1.4)	203.3(1.4)
1926	23,884.0	1,141.1	4,001.3	2,495.5	159.9(0.7)	389.9	328.3(1.4)	130.8(0.5)
1927	24,526.3	3,027.2	3,361.0	4,801.6	170.8(0.7)	656.1	178.5(0.7)	502.9(2.1)
1928	22,014.0	3,287.4	3,612.8	4,512.1	1741.8(7.9)	621.4	115.4(0.5)	756.2(3.4)
1929	22,875.0	2,149.7	2,337.5	4,108.8	4,394.3(19.2)	356.2	68.8(0.3)	1,211.1(5.3)
1930	37,232.9	3,058.3	1,813.1	4,152.4	13,213.5(35.5)	1090.2	267(0.7)	1,080.2(2.9)
1931	30,880.6	3,936.0	843.9	2,462.4	11,396.5(36.9)	870.5	318.2(1.0)	270.9(0.9)
1932	31,078.9	3,059.0	690.2	2,105.1	12,123.3(39.0)	963.5	138.2(0.4)	218.1(0.7)
1933	31,042.4	3,130.5	252.8	1,759.8	11,377.9(36.7)	789	215.3(0.7)	340.1(1.1)
1934	32,752.9	2,742.1	227.0	1,341.9	12,906.2(39.4)	1200.5	64(0.2)	119.4(0.4)
1935	3,401.3	143.0	545.3	450.8	503.7(14.8)	...	34(1.0)	54.8(1.6)
1936	6,807.8	132.9	6,232.1	34.6	1.9(0)	...	95(1.4)	13.9(0.2)
1937	3,901.9	23.8	2,373.3	247.9	1.6(0)	529	156.4(4.0)	1.6(0)
1938
1939
1940

(出所)表～3に同じ。

(表~10) 对露西亞主要港湾別輸出額

(単位:千円)

	合計	横浜	神戸	大阪	函館	新潟	清水	敦賀	小樽
1894	27.6	18.1	0.4
1895	75.2	67.1	4.1
1896	129.7	92.9	5.6
1897	177.6	149.4	4.1
1898	460.6	431.3	7.6
1899	616.8	408.7	82.7
1900	623.3	510.9	19.2
1901	852.3	695.5	13.6
1902	968.9	708.7	16.8
1903	1125.3	909.3	16.9
1904	53.6	33.4	20.2
1905	10.6	3	7.1
1906	77.9	25.2	17.6
1907	441.6	360.9	45.3	0.7
1908	1032.2	986.8	39.7
1909	1856.7	1801.8	53.8
1910	1811.3	1758.3	45.3
1911	2595.7	2517.1	61.8
1912	2540.7	2429.9	78
1913	4897.4	4668.6	167.2
1914	1967.8	1399.4	151.7	404.5(20.6)	...
1915	11239.2	7394.3	383.7	287.2	3172.8(28.2)	...
1916	33421.1	15851.3	5742.8	2826.2	8863.5(26.5)	...
1917	13514.5	4380.6	2561.2	924.5	4511(33.4)	...
1918	162.3	79.6	82.7
1919	464.4	4	460.4
1920	209.5	0	209.5
1921	0.1	0.1
1922
1923
1924	0.6	0.5	0.1
1925	528.2	0.3	3.1
1926	4.6	0.7	3.8
1927	869.3	3.9	0.7	0	628.7	179(20.6)	...
1928	1197.6	127.3	52.9	4.4	804.5	201(16.8)	...
1929	2303.8	17	21.1	2	2017.9	245.7(10.7)	...
1930	1345.2	21.7	54.5	0.1	916.7	351.5(26.1)	...
1931	2134.6	174.9	47.6	3.5	1868.2	40.3(1.9)	...
1932	1378.5	12.4	13.3	3.9	1331.7	17.2(1.2)	...
1933	1575.3	1.2	1	0.9	1549.7	22.5(1.4)	...
1934	1638.8	...	0.2	1627	9.4(0.6)	...
1935	2138	304.3	...	622.5	129.9	1081.3(50.6)	...
1936	8357.3	1615.9	117.2	1077.2	5517.3(66.0)	...
1937	4136.7	73.1	...	101.7	1867.9	2094(50.6)	...
1938
1939
1940

(出所)表~3に同じ。

(表～11) 对露西亞主要港湾別輸入額

(単位:千円)

	合計	横浜	神戸	大阪	函館	新潟	敦賀	小樽
1894	8.5	4.3	0
1895	46.0	11.4	0.5
1896	98.0	7.5	0.3
1897	47.9	13.8	0.6	...	0
1898	116.3	13.9	17.5	1	0.2(0.2)
1899	49.1	3	4	...	1.9(3.9)
1900	309.2	0.6	28.7	0.3	1.4(0.5)
1901	210.3	61.8	71.8	0.6	1.7(0.8)
1902	103.1	10.8	27	0.3	0.6(0.6)
1903	291.6	101.7	50.6	60.5	2.5(0.9)
1904	1995.7	1145.6	515.8	226.9	1.5(0.1)
1905	29.0	16.4	6.5	0.1	0.1(0.3)
1906	40.9	4.5	15.2	0.5	0.2(0.5)
1907	174.9	122.1	10.4	7.5	0.3(0.2)
1908	133.3	36.2	48.9	0.4	0.1(0.1)
1909	153.9	83.7	58.6	0	0.5(0.3)
1910	208.0	54.5	143.9	0	0.5(0.2)
1911	534.1	325.8	153.8	0	0.6(0.1)
1912	73.6	48.2	16	0.8	0.3(0.4)
1913	40.9	26	5.1	1.7	0.4(1.0)
1914	39.9	22.1	11.5	0	0.9(2.3)	...	0.9(2.3)	...
1915	607.2	553.8	20.1	21.6	0.4(0.1)	...	1.4(0.2)	...
1916	1104.3	639.1	215.4	142.9	4.1(0.4)	...	100.4(9.1)	...
1917	1309.4	290.3	508.1	8.6	2.1(0.2)	...	295.9(22.6)	...
1918	685.6	249.6	176.5	87.7	1.5(0.2)	...	166.5(24.3)	...
1919	389.5	173.6	9.8	19.7	0	...	146.2(37.5)	...
1920	386.3	340	0.3	35.2	0.5(0.1)	...	10(2.6)	...
1921	437.8	271.2	5.9	123.3	0.5(0.1)	...	35.6(8.1)	...
1922
1923
1924	480.2	130.5	0.3	329.6	20(4.2)	...
1925	291.4	39.7	48.7	0.2	0.4(0.1)
1926	793.6	7.8	106.5	319.5	0.3(0)	...	0.1(0)	...
1927	1606.3	141.6	50.8	400.9	1012.9(63.1)	...
1928	2141.6	217.5	36.2	1020.5	867.1(40.5)	...
1929	3080.9	1775.1	112.3	1188.6	1.7(0.1)	...	3.1(0.1)	...
1930	2523.9	1960.7	347.5	201.4	2.9(0.1)	...	11.4(0.5)	...
1931	3771	1920	481.1	1353.4	12.6(0.3)	...	0.3(0)	...
1932	1356.6	354.6	2.6	548.3	6.1(0.4)	...	445.1(32.8)	...
1933	5717.4	1845.1	62.2	1087.6	652.7(11.4)	...	2029.1(35.5)	...
1934	8055.6	3156.8	9.9	2233.1	6.3(0.1)	193.1	1778.9(22.1)	...
1935	14503.1	5831.3	957.3	5939.2	0	30	1740.9(12.0)	...
1936	14525.8	7449.2	149	4274.2	2332.2(16.1)	...
1937	9641.8	4795.7	160.5	1412	3273.2(33.9)	...
1938
1939
1940

(出所)表～3に同じ。

